

OMRON

シャットダウンソフト(PowerActPro)

取扱説明書

目次

1. はじめに.....	4
1. 1用途の制限について.....	4
1. 2ソフトウェアの仕様許諾について.....	4
1. 3運用に関するおことわり.....	5
2. PowerAct Pro の概要.....	6
2. 1基本機能.....	6
2. 1. 1機能概要.....	6
2. 1. 2ネットワークシステム構成.....	7
2. 1. 3冗長電源システム構成.....	8
2. 2動作環境.....	10
2. 3無停電電源装置(UPS)の接続.....	11
3. PowerAct Pro の動作確認.....	13
3. 1無停電電源装置(UPS)との接続確認.....	13
3. 2エージェント機能.....	14
3. 3PowerAct Pro モニタの起動確認.....	19
3. 4シャットダウン動作.....	22
3. 4. 1シャットダウン動作の流れ.....	22
3. 4. 2シャットダウン動作の設定例.....	24
4. PowerAct Pro モニタ.....	32
4. 1モニタメニュー.....	32
4. 1. 1システム.....	32
4. 1. 1. 1エージェント自動検索.....	32
4. 1. 1. 2環境設定.....	33
4. 1. 1. 3イベント情報種類.....	56
4. 1. 1. 4スケジュール.....	61
4. 1. 1. 5ログオフ.....	65
4. 1. 2ログ.....	66
4. 1. 2. 1イベントログ.....	66
4. 1. 2. 2データログ.....	67
4. 1. 2. 3CO2 ログ.....	69
4. 1. 2. 4終了アプリケーション.....	71
4. 1. 3UPS 設定.....	71
4. 1. 3. 1ブザー.....	71
4. 1. 3. 2バッテリー自動テスト.....	72
4. 1. 3. 3出力電圧／入力感度.....	72
4. 1. 3. 4バッテリー交換時の設定.....	74
4. 1. 4手動操作.....	75

4. 1. 4. 1即時シャットダウン	75
4. 1. 4. 2ブザーテスト	75
4. 1. 4. 3自己診断テスト	75
4. 1. 4. 4バックアップ時間テスト	76
4. 1. 4. 5出力コンセント B／出力コンセント C	76
4. 1. 4. 6コマンド送信	76
4. 1. 5ヘルプ	77
4. 1. 5. 1オンラインヘルプ	77
4. 1. 5. 2バージョン情報	77
4. 1. 5. 3システム情報	77
4. 1. 5. 4管理者情報	77
4. 1. 5. 5製品ページ	77
4. 1. 5. 6ユーザ登録ページ	77
4. 2モニタのツールバー	78
4. 3イベント情報	79
4. 3. 1イベント情報の内容	79
4. 3. 2イベント情報による外部コマンドの実	87

1. はじめに

1. 1用途の制限について

本ソフトウェアは、一般オフィスや家庭で使われるパーソナルコンピュータ上で使用することを目的に設計、製造されています。きわめて高い信頼性や安全性が要求される次のような用途には、絶対に使用しないでください。

- ① 人命に直接関わる医療機器などの用途。
- ② 人身の損傷に至る可能性のある用途。(航空機、船舶、電車、エレベータ等の運行、運転、制御に直接関連する用途)
- ③ 主要な電算機システム、幹線通信機器、公共の交通システムなどへの用途。
- ④ これらに準ずる機器への用途。

1. 2ソフトウェアの仕様許諾について

本ソフトウェアをコンピュータへインストールされた場合は、次のソフトウェア使用許諾書(以下本契約)内容にご同意いただけたものといたします。ご同意いただけない場合には、本ソフトウェアをコンピュータにインストールしないでください。

<ソフトウェア使用許諾契約書>

オムロン株式会社(以下オムロン)がお客様にソフトウェア商品(以下 本ソフトウェア)を使用許諾する条件を定めたものです。

必ず本ソフトウェアをご使用になる前に、以下の事項を注意してお読みください。

- ① 本契約にいう「本ソフトウェア」とは、本パッケージに含まれるコンピュータ・プログラムおよびそれに関連する技術資料などのすべてを含みます。本ソフトウェアにかかわる著作権その他の知的財産権はオムロンまたはオムロンに使用許諾をしている第三者に帰属し、本契約によりお客様に移転することはありません。お客様がそれらの権利を侵害した場合、前述のオムロンまたはオムロンに使用許諾をしている第三者に対する責任は、お客様が負うものとします。
- ② オムロンは、お客様が無停電電源装置(UPS)を管理する目的のみで本ソフトウェアを使用する非独占権利を承諾します。
- ③ お客様は本ソフトウェアのバックアップ目的のためのみに本ソフトウェアを複製することができます。お客様は本ソフトウェアの改変ならびに逆コンパイル、逆アセンブリ、およびリバースエンジニアリングその他のそれに類する行為を行うことはできません。
- ④ お客様は、本ソフトウェアの内容について本契約期間中およびその終了後も機密として保存し、三者へ開示しないものとします。
- ⑤ ソフトウェアに物理的な欠陥(CD-ROMやDVD-ROMなど)があった場合には、お客様が商品を購入した日から90日に限り、無償で交換します。
- ⑥ 上記の本ソフトウェアの交換は、オムロンのソフトウェア保証責任のすべてを定めるものであり、オムロンは本ソフトウェアの欠陥により発生した、お客様の直接的、間接的あるいは波及効果による損害に対しては一切の責任を負いません。
- ⑦ 本ソフトウェアの改変ならびに逆コンパイル、逆アセンブリ、およびリバースエンジニアリン

グその他のそれに類する行為により、特許権(実用新案権に基づく権利も含む。以下同じ)または著作権を侵害するものとしてオムロンに使用を許諾している第三者および当該第三者以外からお客様が請求された場合には、オムロンは責任を負いません。

- ⑧ オムロンがお客様の損害について責任を負ういかなる場合においても、オムロンの責任はお客様が商品購入代金として支払った金額を超えることはありません。
- ⑨ お客様が本契約に違反した場合、オムロンはお客様に通知することにより本ソフトウェアの使用許諾を終了させることができます。その場合お客様は本ソフトウェアおよびそのすべての複製物をオムロンに返却しなければなりません。

1. 3運用に関するおことわり

- ① 本ソフトウェアおよび本書の内容の全部または一部を無断で流用することは固くお断りいたします。
- ② 本ソフトウェアおよび本書の内容については将来、予告なしに変更する場合があります。
- ③ 本ソフトウェアおよび本書の内容については万全を期しておりますが、万一誤りやお気づきの点がございましたら、当社までご連絡くださるようお願いいたします。
- ④ 本書に記載した画面などは、実際のものとは一部異なる場合があります。

© OMRON Corporation.2009 All Rights Reserved

「PowerAct Pro」は、当社の登録商標です。

Microsoft, MS-DOS, MS, Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

(訳) 本ソフトウェアには、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)において開発されたソフトウェアが含まれます。

2. PowerAct Pro の概要

2. 1 基本機能

2. 1. 1 機能概要

本ソフトウェアは、無停電電源装置(UPS)の監視、WWW ブラウザを使用したモニタからの無停電電源装置(UPS)の各種設定、(シャットダウン動作に関する設定、イベント情報の通知設定、出力コンセント制御など)、無停電電源装置(UPS)の動作状態の表示、OS などを自動終了するものです。

- ① 本ソフトウェアは、入力電源異常(停電など)が発生した時に、アプリケーションソフトを自動終了させ、OS やハードディスクの損傷を防止するソフトウェアです。
- ② 入力電源異常(停電など)が発生した場合、本ソフトウェアは、作成中や編集中のファイルを自動保存し、アプリケーションソフトや OS の終了を行います。また OS 終了後に無停電電源装置(UPS)は自動停止します。
- ③ 本ソフトウェアは、インターネット、イントラネット経由で無停電電源装置(UPS)の状態を監視できます。
- ④ 本ソフトウェアは、ネットワーク上の複数のサーバ、クライアントを連携してシャットダウンさせることができます。
- ⑤ 本ソフトウェアは、冗長電源内蔵のサーバに接続されている複数台の無停電電源装置(UPS)を同時に監視することができます。入力電源異常(停電など)が発生した場合は、自動的に OS のシャットダウン動作と無停電電源装置(UPS)の自動停止処理を行います。
- ⑥ 出力コンセント制御機能を搭載した無停電電源装置(UPS)と本ソフトウェアを組み合わせることにより、無停電電源装置(UPS)の起動時の出力コンセントの開始遅延やシャットダウン時の出力コンセントの停止遅延を設定することができます。
- ⑦ 本ソフトウェアは、シャットダウン警告や無停電電源装置(UPS)の動作情報(以下 イベント情報という)を指定したユーザへネットワーク経由で通知することができます。
- ⑧ 本ソフトウェアは、スケジュール運転や即時シャットダウンなどの操作、管理機能や無停電電源装置(UPS)の自己診断機能などを搭載しています。

【備考】

本取扱い説明書では、本ソフトウェアの動作状態や設定状態の変化、無停電電源装置(UPS)の動作状態の変化を“イベント”と表現しています。

シャットダウン動作について

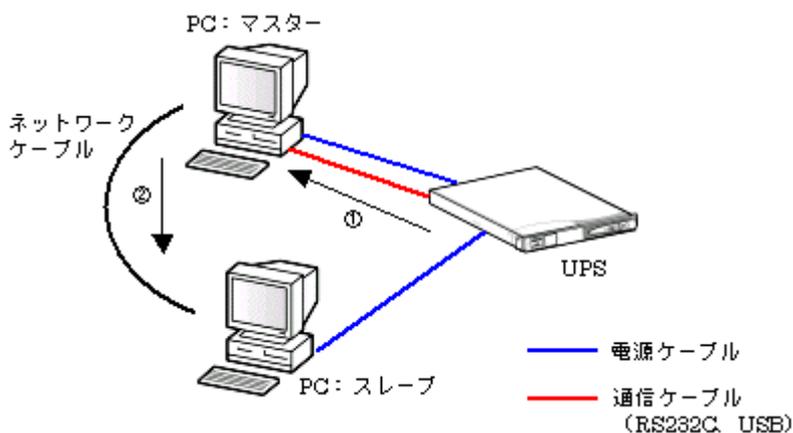
- シャットダウン動作をご理解いただくために、「3. 4. 1 シャットダウン動作の流れ」をご参照ください。

ファイル自動保存に関する注意事項

- 文書ファイルなどを外部記録媒体から読み込み、ファイルを開いている場合、外部記録媒体を抜かないでください。ファイルを開いたまま外部記録媒体を抜いている時に、入力電源異常(停電など)が発生すると本ソフトウェアがシャットダウン動作を開始しても、正常にアプリケーションソフトや OS を終了することができません。
- アプリケーションソフトによっては、作成中または編集中的のファイルを自動保存できない場合があります。

2. 1. 2 ネットワークシステム構成

本システム構成では、ネットワークで接続された複数のコンピュータをマスター/スレーブ構成により1台のUPSでバックアップすることができます。PowerAct Pro スレーブエージェント(以下スレーブ)をインストールしたコンピュータをPowerAct Pro マスターエージェント(以下マスター)をインストールしたコンピュータからのネットワーク経由の命令でシャットダウンできます。



本システム構成では次のようなバックアップ動作が実行されます。

【バックアップ動作】

- ① 無停電電源装置(UPS)が入力電源異常を検出すると、無停電電源装置(UPS)は、入力電源異常をコンピュータ(マスター)へ通信ケーブル経由で通知します。

- ② コンピュータ(マスター)は、シャットダウン動作を開始すると同時にコンピュータ(スレーブ)にネットワーク経由でシャットダウンを開始するように命令を送信します。
- ③ コンピュータ(スレーブ)は、設定されているシャットダウン設定に従ってシャットダウン動作を開始します。
- ④ シャットダウン完了後に無停電電源装置(UPS)の電源が自動的に切れます。

【補足】

マスター／スレーブのネットワークシステムを構成される場合は、必ず HUB やルータなどのネットワーク通信機器の電源ケーブルも、無停電電源装置(UPS)の出力コンセントへ接続してください。

マスターをインストールしているコンピュータが起動していない時に入力電源異常が発生した場合、スレーブをインストールしているコンピュータは自動シャットダウンを行いません。必ずマスターをインストールしているコンピュータを起動してください。

2. 1. 3冗長電源システム構成

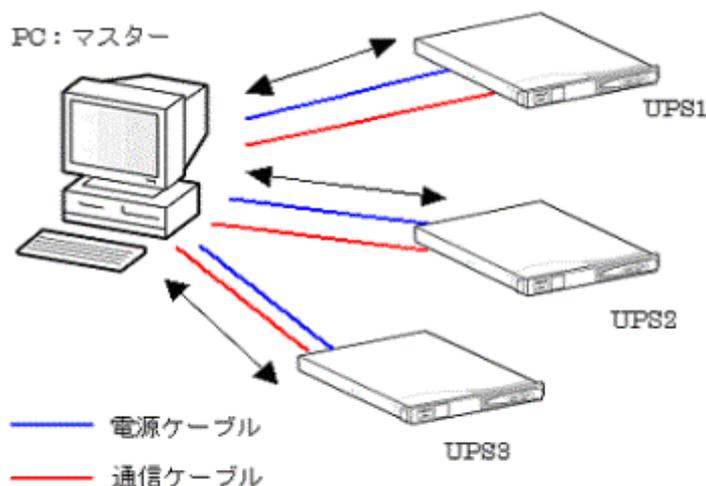
冗長電源内蔵のコンピュータを複数の無停電電源装置(UPS)でバックアップする構成です。コンピュータにインストールされたマスターによって複数の無停電電源装置(UPS)の監視および制御を行うことができます。

冗長電源システムとしては、[1+N]構成または[N+1]構成の 2 通りの方式から選択することができます。

●[1+N]構成の冗長電源システム

コンピュータに接続した複数の無停電電源装置(UPS)の内、最低 1 台以上の無停電電源装置(UPS)が正常動作し、コンピュータに対して電力供給をしていればコンピュータはシャットダウン動作を開始しないシステム構成です。

下図の例では、3 つの電源ユニットを搭載したコンピュータの電源ユニットごとに各 1 台ずつ無停電電源装置(UPS)を接続しています。



この構成では次のようなバックアップ動作が実行されます。

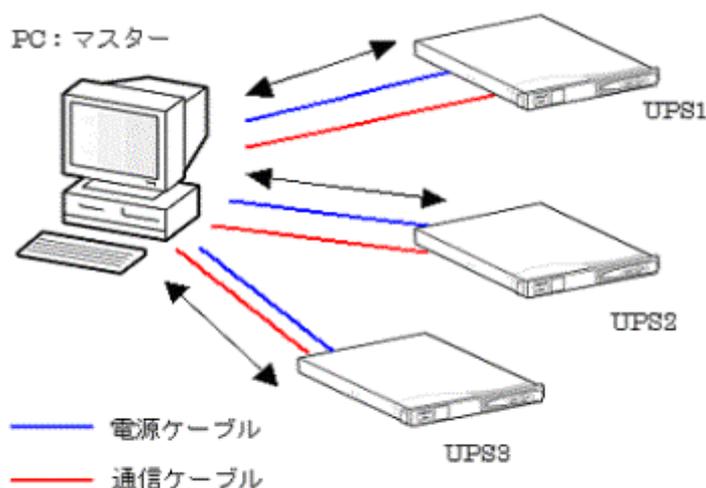
【バックアップ動作】

- ① 無停電電源装置(UPS)の UPS3 で入力電源異常(停電など)が発生し、UPS1 と UPS2 の入力電源が正常である場合は、コンピュータ(マスター)は UPS3 のみを自動停止し、OS のシャットダウン動作は行いません。
- ② 無停電電源装置(UPS)の UPS2 でさらに電源異常が発生した場合、UPS1 が正常動作していれば、コンピュータ(マスター)は、UPS2 のみを自動停止し、OS のシャットダウン動作は行いません。
- ③ 無停電電源装置(UPS)の UPS1 でさらに電源異常が発生した場合、コンピュータ(マスター)は、設定されているシャットダウン設定に従って、OS のシャットダウンを行い、OS シャットダウン完了後に無停電電源装置(UPS)を自動的に停止します。

●[N+1]構成の冗長電源システム

無停電電源装置(UPS)から電力供給を受けているコンピュータの電源ユニット数が、“N”台以下になるような場合は、OS のシャットダウンと無停電電源装置(UPS)の自動停止を行うシステム構成です。

下図の例では、3 つの電源ユニットを搭載したコンピュータの電源ユニットごとに各 1 台ずつ無停電電源装置(UPS)を接続しています。



この構成では次のようなバックアップ動作が実行されます。

【バックアップ動作】

上図のコンピュータは、無停電電源装置(UPS)から電力供給されている電源ユニットが 2 台以下になるような場合は、OS のシャットダウンと無停電電源装置(UPS)の自動停止処理を行うように設定されているものとします。

- ① 無停電電源装置(UPS)の UPS3 で入力電源異常(停電など)が発生しても、UPS1 および UPS2 の入力電源が正常である場合は、コンピュータ(マスター)の 2 台の電源ユニットに

対して電力供給が可能なので、コンピュータ(マスター)は UPS3 のみを自動停止し、OS のシャットダウンは行いません。

- ② 無停電電源装置(UPS)の UPS2 で電源異常が発生した場合は、UPS1 の入力電源が正常でも、無停電電源装置(UPS)から電力供給を受けられる電源ユニットは1台になりコンピュータ(マスター)が正常に運転できなくなるので、コンピュータ(マスター)は設定されているシャットダウン設定に従って、OS のシャットダウンを行い、OS シャットダウン完了後に無停電電源装置(UPS)を自動的に停止します。

2. 2動作環境

		PAPro Master			
		Ver4.8	Ver4.9	Ver5.X	
対応 OS と 対応プラットフォーム	Microsoft Windows 8.1 Microsoft Windows 8	x86 AMD64 EM64T	— —	— ○	○ ○
	Microsoft Windows Server 2012 R2 Microsoft Windows Storage Server 2012 R2 Microsoft Windows Server 2012 Microsoft Windows Storage Server 2012	x86 AMD64 EM64T	— — ○ ○	— — ○ ○	○ ○ ○ ○
	Microsoft Windows Server 2008 R2 Microsoft Windows Storage Server 2008 R2 Microsoft Windows Server 2008 Microsoft Windows Storage Server 2008	x86 AMD64 EM64T	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	Microsoft Windows 7	x86 AMD64 EM64T	○	○	○
	Microsoft Windows Vista	AMD64 EM64T	○	○	○
	Microsoft Windows Server 2003 R2 x64 Editions Microsoft Windows Server 2003 x64 Edition(SP1)	AMD64 EM64T	○ ○	○ ○	○ ○
	Microsoft Windows XP Professional x64 Edition (SP1)	AMD64 EM64T	○	○	○
	Microsoft Windows Server 2003 R2 Microsoft Windows Server 2003 (SP1)	x86	○ ○	○ ○	○ ○
	Microsoft Windows XP(SP1/SP2/SP3)	x86	○	○	○
	WWW ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 6.0 以上			
HTTP サーバ	Apache HTTP Server 2.2.8 Internet Information Services(Windows OS 標準)				
RAM	128MB 以上(256MB 以上推奨)				
ハードディスク容量	100MB 以上				
インターフェース	RS-232C、USB				
ネットワークカード	10Mbps 以上のネットワークカード				
プロトコル	TCP/IP				

This product includes software developed by the Apache Software Foundation

(<http://www.apache.org/>).

(訳) 本ソフトウェアには、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)において開発されたソフトウェアが含まれます。

2. 3無停電電源装置(UPS)の接続

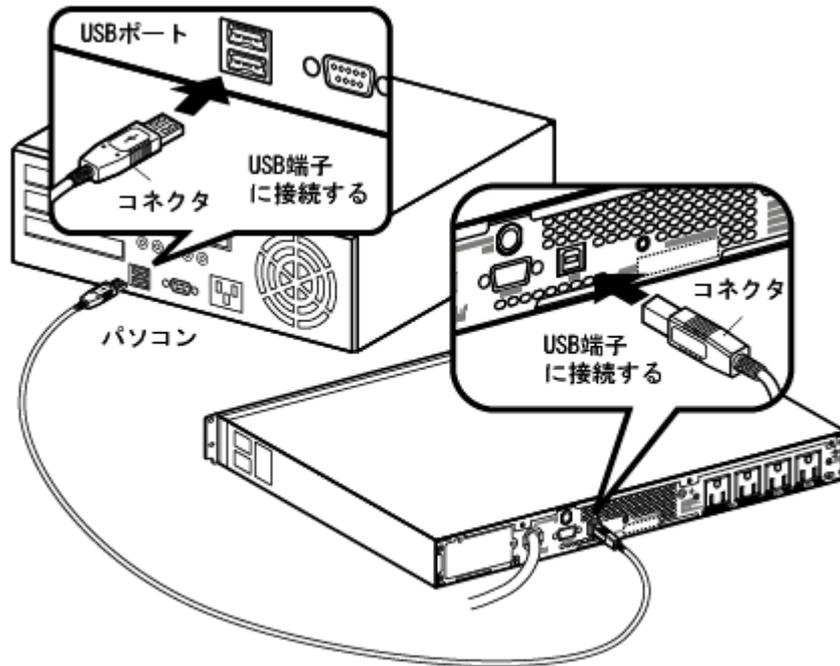
以下の手順で無停電電源装置(UPS)とコンピュータを接続します。

- ① コンピュータと無停電電源装置(UPS)の電源スイッチが切れていることを確認します。
電源スイッチが切れていない場合は、Windowsを終了しコンピュータの電源スイッチを切り、その後で無停電電源装置(UPS)の電源スイッチを切ってください。
- ② コンピュータとUPSの通信を行うための付属通信ケーブル(RS-232C または USB)で、コンピュータと無停電電源装置(UPS)を下図のように接続します。接続時の注意点を参照してください。
- ③ 通信ケーブル(RS-232C)の場合は、コネクタ固定用ネジを締め、コネクタを固定します。
- ④ 無停電電源装置(UPS)の「電源スイッチ」を入れ、次にコンピュータの「電源スイッチ」を入れます。
- ⑤ USB 接続をしている場合、OS 起動時に接続されたUPSを自動的に「ヒューマンインターフェースデバイス」として認識します。
- ⑥ OS 起動後に、本ソフトウェアをインストールしてください。

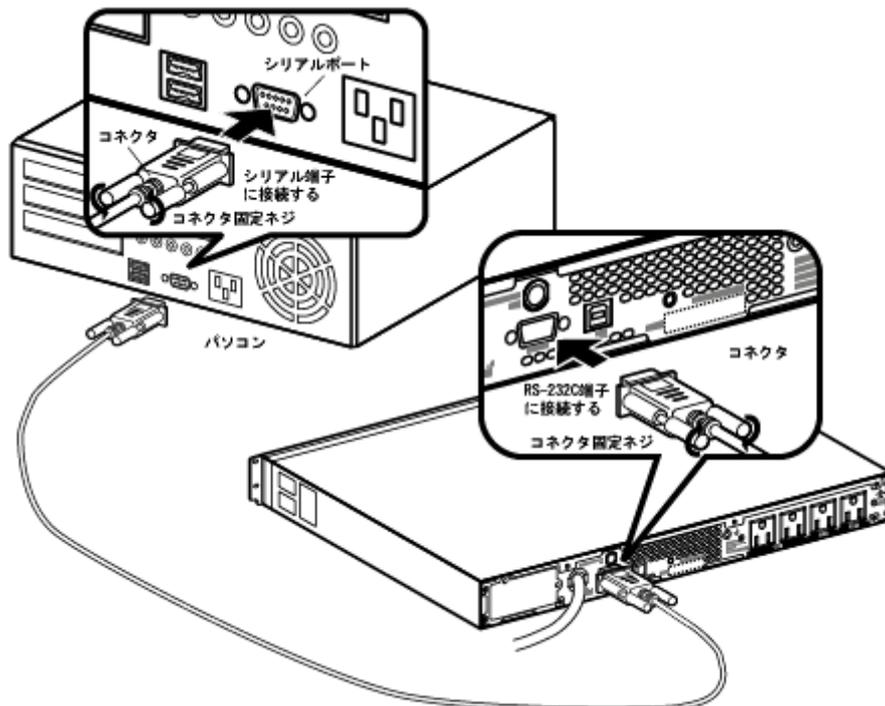
接続時の注意点

- 無停電電源装置(UPS)のRS-232Cコネクタとコンピュータのシリアルポートを接続するケーブルは、必ず付属ケーブルを使用してください。
また、付属ケーブルを使用して通信機器や他社の無停電電源装置(UPS)を接続しないでください。
- コンピュータのシリアルポートまたはUSBポートのいずれか1つが占有されます。
- シリアル拡張ボード、USB拡張ボード、USB-シリアルアダプタなどは使用できません。
- シリアルポートが2つあるコンピュータで、シリアル2(シリアルB)側を使用する場合、コンピュータのシリアル2(シリアルB)に関するBIOS設定が「Disable」となっている機種があります。シリアル2(シリアルB)を使用する場合は、この設定を「Enable」へ変更して使用してください。コンピュータのBIOS設定の確認および設定変更方法は、使用するコンピュータによって異なります。使用しているコンピュータの取扱説明書を参照するか、または使用しているコンピュータのサポートセンタへ問い合わせてください。

接続図(BN150XR の例) USB 接続



接続図(BN150XR の例) RS-232C 接続



3. PowerAct Pro の動作確認

3.1 無停電電源装置(UPS)との接続確認

PowerAct Pro マスターエージェントをインストールしたコンピュータでは、Windows のタスクトレイに PowerAct Pro アイコン([電源プラグ]のアイコン)が自動的に作成され、接続されている無停電電源装置(UPS)との通信を開始します。



何らかの理由で無停電電源装置(UPS)と通信ができない場合や無停電電源装置(UPS)に異常が発生している場合は、PowerAct Pro アイコンが次のように表示されます。マウスカーソルをアイコンの上に移ると、異常内容が表示されます。



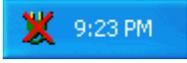
異常が発生した場合は次の事項を確認してください。

- コンピュータと無停電電源装置(UPS)を接続している付属ケーブルが外れていないか。
- 無停電電源装置(UPS)を接続しているコンピュータのシリアルポートまたは USB ポートが使用可能な状態か。
- 他のソフトウェアが無停電電源装置(UPS)を使用しているコンピュータのシリアルポートを使用していないか。
- 無停電電源装置(UPS)のバッテリーが接続されているか。
- 無停電電源装置(UPS)が故障していないか。

アイコン表示の上にマウスカーソルを置くと、無停電電源装置(UPS)とバッテリーの状態がバブルの中に表示されます。

<表示の見方について>

無停電電源装置(UPS)状態は左側に表示されます。 バッテリー状態は右側に表示されます。

アイコン表示	表示内容例
 	商用運転中 正常
	バックアップ運転中
	接続容量オーバー
	バイパス運転中
	ハードウェア異常
	商用運転中 バッテリー劣化
	商用運転中 バッテリー未接続
 	エージェント停止

3. 2エージェント機能

本ソフトウェアが無停電電源装置(UPS)を監視し、その状態に応じてコンピュータおよび無停電電源装置(UPS)を制御する機能を PowerAct Pro のエージェント機能といいます。

PowerAct Pro マスターエージェント(以下マスター)と PowerAct Pro スレーブエージェント(以下スレーブ)の 2 つのエージェントが無停電電源装置(UPS)に接続されたコンピュータに常駐することによって以下のような機能が実行できます。

【PowerAct Pro マスターエージェントについて】

- コンピュータに接続されている無停電電源装置(UPS)と通信し、無停電電源装置(UPS)の状態を監視します。
- マスターからスレーブに信号を送ることによって連携してシャットダウン動作を行うことができます。
- ネットワーク上のコンピュータに無停電電源装置(UPS)で発生した各種イベント情報を通知します。
- 無停電電源装置(UPS)で発生するイベントやデータを記録します。
- OS と無停電電源装置(UPS)のシャットダウンを実行します。

【PowerAct Pro スレーブエージェントについて】

- マスターからの信号により、シャットダウン動作を行うことができます。
- OS のシャットダウンを実行します。

【備考】

エージェント機能は、コンピュータを起動したときに自動的に起動されます。

エージェントのアイコン表示

PowerAct Pro をインストールすると、エージェントのアイコンが自動的にタスクバーに表示されます。アイコン表示には、次の 5 種類の表示形式があり無停電電源装置(UPS)の状態に合わせてアイコンが変化します。

アイコン表示	説明
	マスターエージェントのアイコンです。 エージェント機能が起動していることを示します。
	スレーブエージェントのアイコンです。 エージェント機能が起動していることを示します。
	エージェント機能が停止しています。
	無停電電源装置(UPS)がバックアップ状態で運転しています。
	通信エラー／ハードウェア異常などが発生しています。

アイコン表示にマウスカーソルを合わせてマウスの右ボタンをクリックすると次のようなメニューが表示されます。

メニュー	説明
エージェント起動	エージェント機能を開始します。
エージェント停止	エージェント機能を停止します。
アクセス権設定	マスターのみのメニューです。 PowerAct Pro モニタへのアクセス権を設定できます。詳細な使用方法については下記の「アクセス権の設定機能」を参照してください。
シャットダウン再開	マスターのみのメニューです。 一時停止したシャットダウン動作を再開します。
シャットダウン一時停止	マスターのみのメニューです。 シャットダウン動作を一時停止できます。
環境設定	スレーブのみのメニューです。 スレーブエージェントの設定を変更できます。操作方法は下記の「スレーブエージェントの環境設定」を参照してください。

【備考】

各機能の詳細については、「4 項 PowerAct Pro モニタ」を参照してください。

アクセス権の設定機能

本ソフトウェアにアクセスできるユーザのログイン ID とパスワードおよびアクセス権(フルアクセス、リードオンリー、またはカスタム)を設定できます。

「フルアクセス」を設定すると、PowerAct Pro モニタのすべての機能が使用できます。

「リードオンリー」を設定すると PowerAct Pro モニタの表示のみができます。

「カスタム」を設定すると、使用することのできる機能を個別に設定できます。

アクセス権の設定、変更は次の手順で行います。

【設定・変更手順】

- ① マスターエージェントアイコンを右クリックしてメニューを表示します。
- ② [アクセス権設定](Access Right Setting)をクリックします。
- ③ ログイン ID「Admin」のパスワードを入力します。

- ④ 新規登録する場合は[登録]、すでに登録済みのログイン ID を修正する場合は、リストの中から該当ログイン ID を選択して[修正]をクリックします。また、ログイン ID を削除する場合は、リストの中から該当ログイン ID を選択して[削除]をクリックします。

ログインID	アクセス権
Admin	フルアクセス

- ⑤ 登録または修正する場合は次の画面でログイン ID とパスワード、アクセス権を設定し、[OK]をクリックします。

- ⑥ アクセス権で「カスタム」を選択した場合は、アクセス可能にする機能を左のリストから選択し、[>>]ボタンで権限に加えます。逆に権限から外す場合は右のリストから選択し、[<<]ボタンをクリックします。設定が完了したら[OK]ボタンをクリックします。

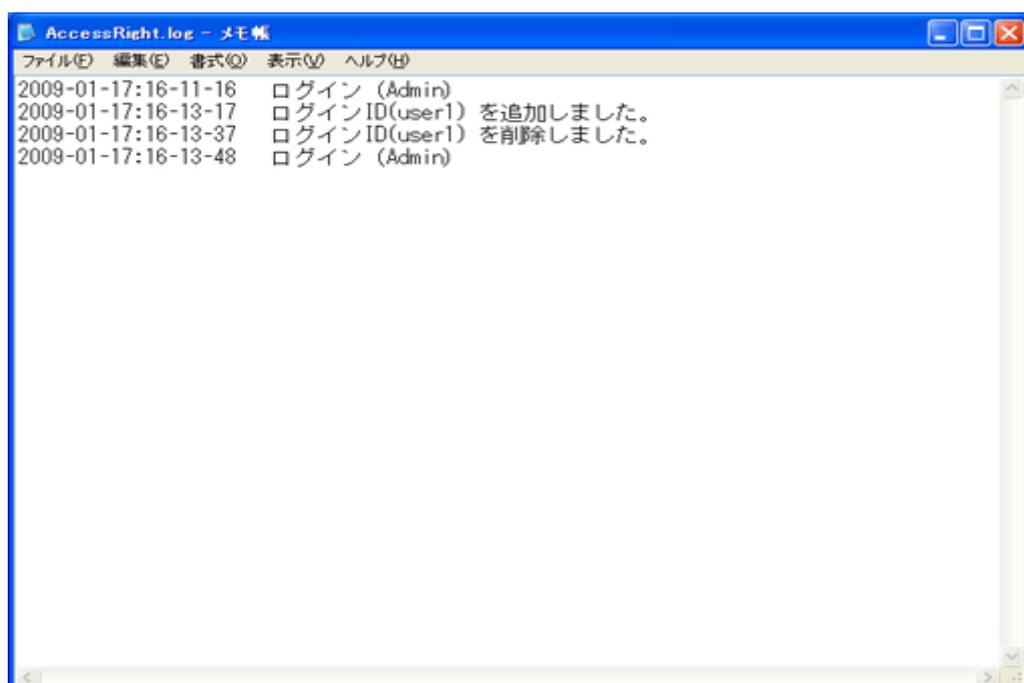


- ⑦ 操作を終了する場合は[キャンセル]をクリックします。



【参考】

[ログ]ボタンをクリックすると、操作の記録を見ることができます

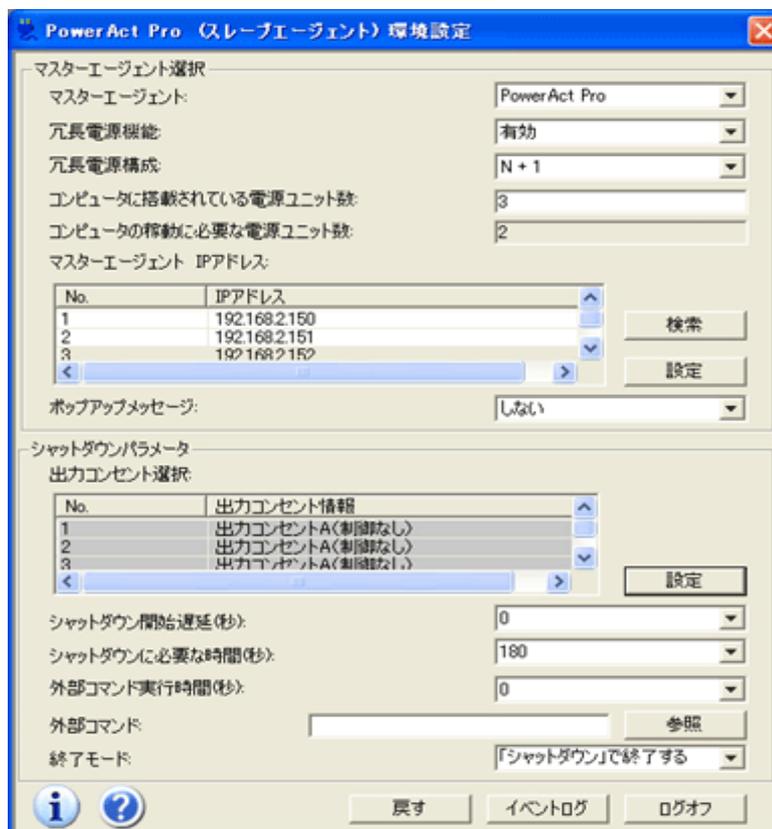


スレーブエージェントの環境設定

スレーブエージェントを使用する場合は、スレーブを制御するマスターエージェントを指定し、シャットダウン動作を設定する必要があります。

通常は、スレーブエージェントをインストールする時に設定しますが、マスターエージェントの IP アドレスが変更になった場合などに変更するときは次の手順で操作します。

- ① スレーブエージェントアイコンを右クリックしてメニューを表示します。
- ② [環境設定]をクリックします。
- ③ 変更箇所の設定を修正し、[設定]ボタンをクリックします。修正が完了したら、[ログオフ]ボタンをクリックします。



3. 3PowerAct Pro モニタの起動確認

無停電電源装置(UPS)の制御や設定は、PowerAct Pro モニタ画面から行います。

PowerAct Pro モニタは次の手順で起動します

- ① [アドレス]欄に PowerAct Pro マスターエージェント(以下マスター)をインストールしたコンピュータの IP アドレスを次のように入力し、[Enter]キーを押します。(注意:アドレス末尾の「/」は必ず入力してください。)

【ネットワークポートを変更していない場合の入力フォーマット】

入力フォーマット: `http://***.***.***.***/PowerAct_Pro/`

入力例: `http://192.168.1.100/PowerAct_Pro/`

【ネットワークポートを変更している場合の入力フォーマット】

入力フォーマット: `http://***.***.***.***:****/PowerAct_Pro/`

入力例: `http://192.168.1.100:8080 /PowerAct_Pro/`

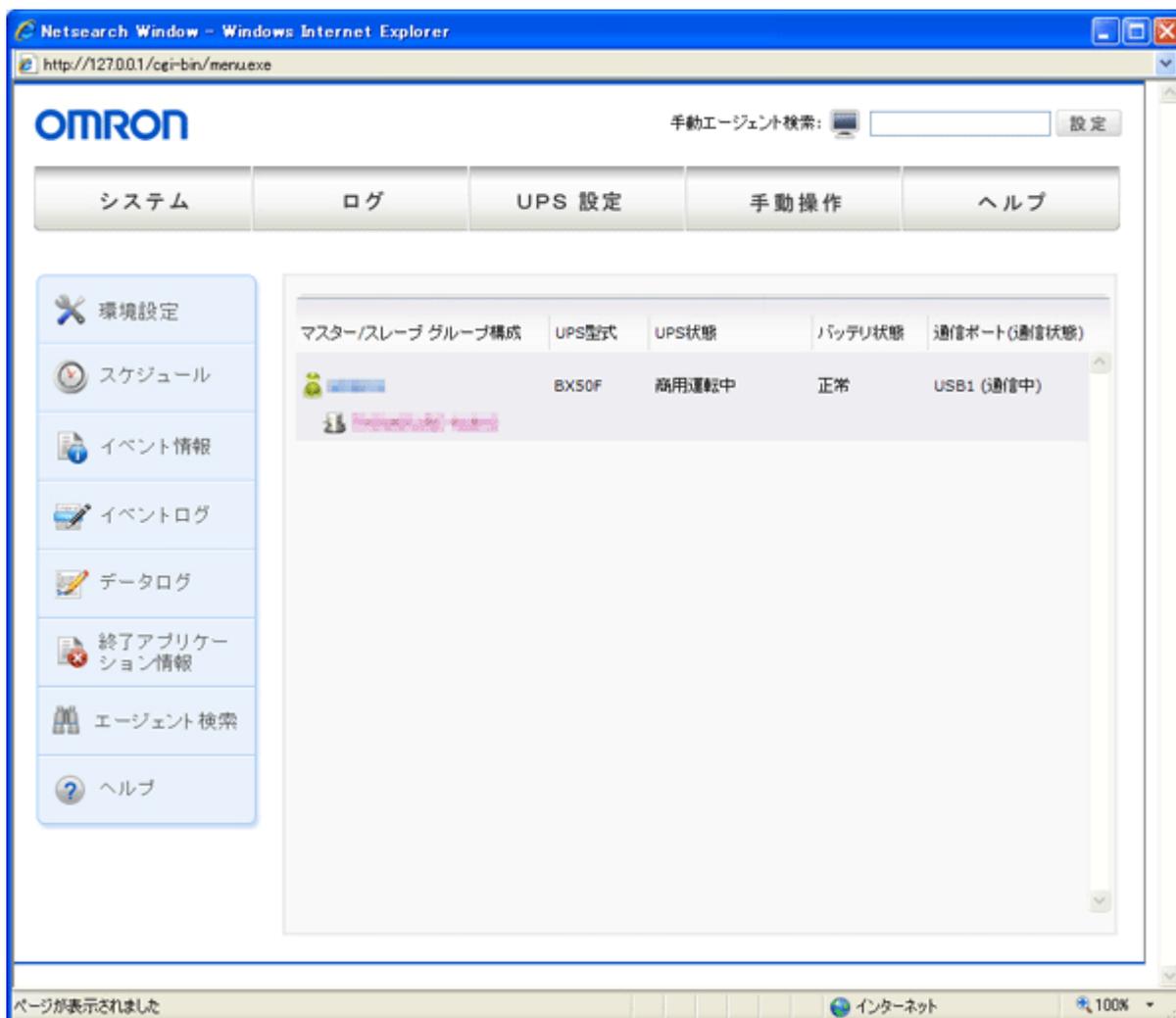
【備考】

コンピュータの IP アドレス:***.***.***.***

ネットワークポートアドレス:****

- ② ネットワーク上の PowerAct Pro エージェントの一覧が表示されます。
- ③ マスターエージェントの名前をクリックします。
各エージェントを示すアイコンは次のとおりです。

アイコン (Icon)	エージェント(Agent)
	マスターエージェント
	スレーブエージェント



- ④ [ログイン]画面で、PowerAct Pro マスターエージェントのインストール中に設定したログイン ID(ユーザ名)とパスワードを入力し、[設定]ボタンをクリックします。

<日本語>

ログインID:	<input type="text" value="Admin"/>
パスワード:	<input type="password" value="●●●●●●"/>

PowerAct Pro モニタのメイン画面が表示されます

The screenshot displays the main monitoring page for the PowerAct Pro Monitor EDEN1. The interface is in Japanese and includes a navigation menu, system information, and a detailed monitoring dashboard.

System Information:

- 日時: 2009年02月06日 17:08:56
- 今回のバッテリー交換: 2010-02-05
- 前回のバッテリー使用開始日(交換日): 2009年02月05日

Monitoring Dashboard:

UPS型式:	BX50F	ブザー:	ならず
UPS状態:	商用運転中	ファンクションテストステータス:	する
出力コンセントA(制御なし):	出力中	バッテリー自動テスト:	する
出力コンセントB(制御あり):	未対応	UPSコールドスタート機能:	しない
出力コンセントC(制御あり):	未対応	出力電圧/入力感度:	100V/標準感度
バッテリー状態:	正常	UPS自動再起動:	する
増設バッテリー:		通信ポート:	USB 1
		設定:	
		テスト結果:	

入力電圧:	40	60	80	100	120	140	98.9 V
出力電圧:	40	60	80	100	120	140	98.9 V
入力周波数:	40	45	50	55	60	65	50.0 Hz
出力周波数:	40	45	50	55	60	65	50.0 Hz
接続容量:	0	25	50	75	100	125	15 %
バッテリー容量:	0	25	50	75	100	125	100 %

Log:

- 次回のシャットダウン(日時):
- 次回のUPS起動(日時):
- 推定バックアップ時間:
- 2009-02-06 14:08:22通信確立 [UPS<型式:BX50F / 通信ポート:USB 1>]UPSと通信を開始しました。
- 2009-02-06 14:08:19エージェントを起動します。

3. 4シャットダウン動作

3. 4. 1シャットダウン動作の流れ

PowerAct Pro は、次のイベントが発生するとシャットダウン動作を開始します。

これらのイベントが発生すると、本ソフトウェアは OS を自動終了させ、無停電電源装置(UPS)を自動停止します。

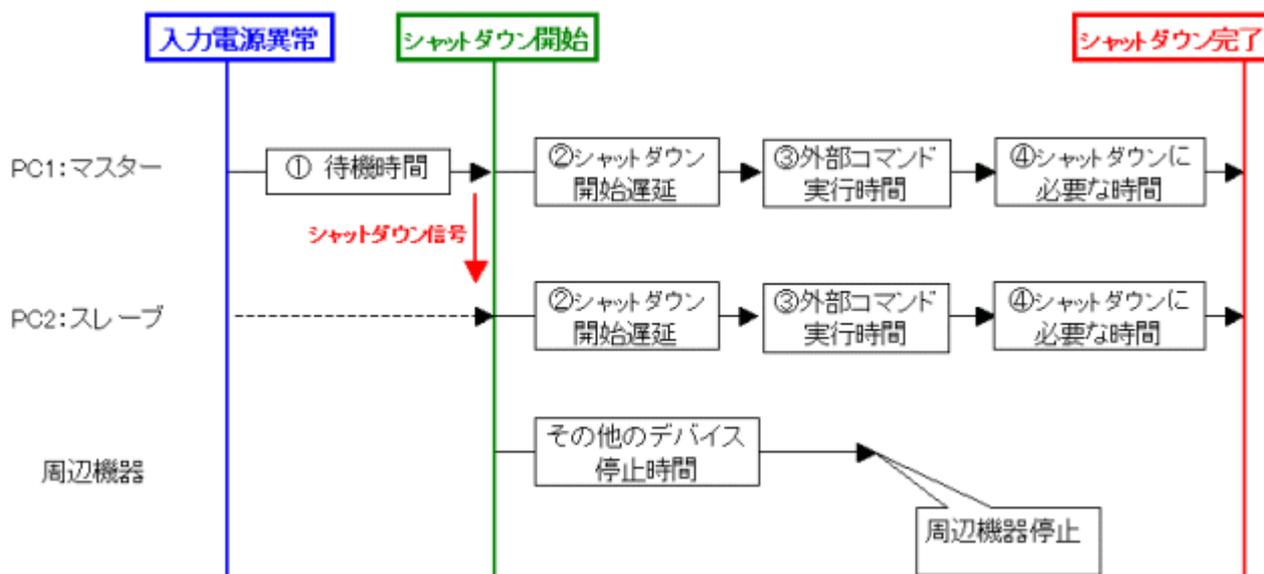
【無停電電源装置(UPS)からのシャットダウン情報】

- 「入力電源異常」の情報を無停電電源装置(UPS)から受け取ったとき
- 「バッテリーロー」の情報を無停電電源装置(UPS)から受け取ったとき

【ユーザ設定によるシャットダウン情報】

- スケジュール設定によるシャットダウンを実行したとき
- 即時シャットダウンを実行したとき

シャットダウン動作は次の図の順序で進行します。PowerAct Pro マスターエージェント(以下マスター)がインストールされた PC1、PowerAct Pro スレーブエージェント(以下スレーブ)がインストールされた PC2、およびテープドライブなどの周辺機器が無停電電源装置(UPS)に接続されている場合のシャットダウンの流れについて説明します。



入力電源異常	入力電源異常(停電など)が発生しました。無停電電源装置(UPS)から接続している機器へ電力供給を開始します。
①待機時間	入力電源異常(停電など)を検出しても、設定されている時間を経過しなければ、シャットダウンを開始いたしません。 待機時間中に無停電電源装置(UPS)のバッテリーが「バッテリーロー」になった場合は、待機時間が経過していても直ちにシャットダウン開始を実行します。 待機時間中に、スケジュール運転開始時間になった場合は、待機

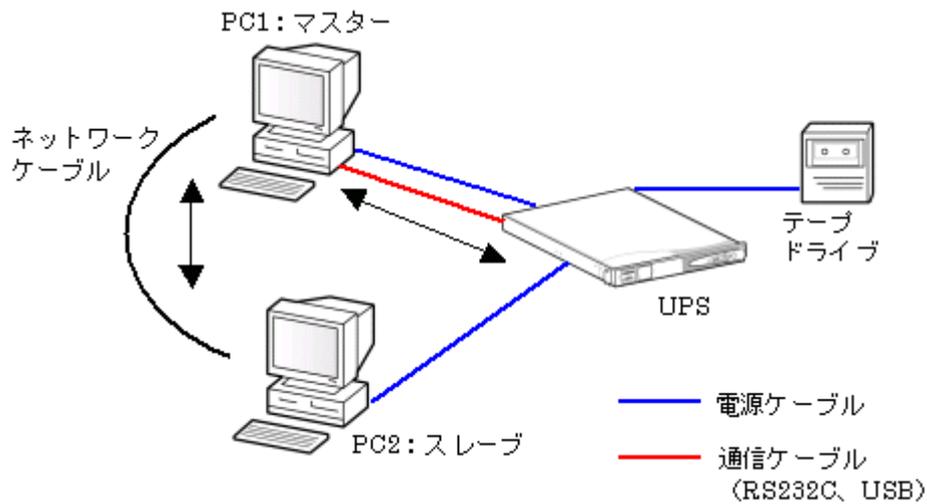
	<p>時間が経過していなくても、直ちにシャットダウン開始を実行します。</p> <p>【注意】</p> <p>この時間を長く設定しすぎると、無停電電源装置(UPS)の内部バッテリーが消耗し、バックアップ能力がなくなります。この場合、システムを正常にシャットダウンする前に無停電電源装置(UPS)が停止してしまう場合があります。</p>
シャットダウン開始	<p>待機時間を経過しても入力電源異常(停電など)が回復しなかったので、シャットダウンを開始します。マスターのシャットダウン動作にあわせて、マスターはスレーブに対してネットワーク経由でシャットダウン信号を送信します。スレーブは、設定されている時間設定(以下の②～④)に従ってシャットダウン動作を開始します。</p> <p>【注意】</p> <p>「シャットダウン開始」後、入力電源が回復すると、無停電電源装置(UPS)はバックアップ運転から商用運転に戻りますが、OS のシャットダウンと無停電電源装置(UPS)のシャットダウンは行いません。無停電電源装置(UPS)が停止するまでは、コンピュータの電源を入れないようにしてください。</p>
②シャットダウン開始 遅延	<p>シャットダウン開始後、さらにシャットダウン開始を遅延させたい場合に、遅延時間を設定してください。例えば、シャットダウン開始してから1分後にシャットダウンを開始したい場合は、この遅延時間を60秒に設定してください。</p>
③外部コマンド実行 時間	<p>外部コマンドを設定した時間だけ実行することができます。設定した時間が経過するまでは、次の動作(アプリケーション終了や OS シャットダウン処理)を行いません。Hyper-V を使用する場合は、ゲスト OS が終了するのに十分な時間を設定してください。</p>
④シャットダウンに 必要な時間	<p>アプリケーションソフトと OS のシャットダウンにかかる時間を設定してください。</p> <p>【注意】</p> <p>システムを正常にシャットダウンする前に無停電電源装置(UPS)が停止するような場合は、この時間を現在設定している時間より長く設定してください。</p>
シャットダウン完了	<p>設定した時間が経過したので、無停電電源装置(UPS)を停止しました。</p>
その他のデバイス 停止までの時間	<p>周辺機器(例えば、ルータ、モデム、テープストレージなど)の電源を切る時間を設定することができます。</p>

3. 4. 2シャットダウン動作の設定例

マスター/スレーブ構成のネットワークシステムおよび冗長電源システム使用時のシャットダウン動作の設定例を紹介します。

ケース 1: PC 2 台を UPS1 台に接続する。

【接続構成】



【事例】

シャットダウンを行う場合は、PC2→PC1→周辺機器の順でシャットダウンしたい。
システムを起動するときは、周辺機器(テープドライブ)→PC1→PC2 の順で起動したい。

【インストールするソフトウェア】

PowerAct Pro マスターエージェントプログラムを PC1(SERVER01)にインストールする。

PowerAct Pro スレーブエージェントプログラムを PC2(SERVER02)にインストールする。

【設定手順】

- ① [環境設定]－[シャットダウンパラメータ]の[エージェント選択]で「SERVER01(マスター)」を開き、次の設定を行います。



> シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

デフォルト

>> シャットダウンパラメータ

- エージェント選択
- 冗長電源設定
- その他のデバイス
- Wake ON LAN 設定
- 出力コンセント情報
- スクリプトシャットダウン

エージェント選択 (マスター) 設定

UPS出力コンセント選択 出力コンセントA (制御あり)

待機時間 60 秒

シャットダウン開始遅延 60 秒

外部コマンドライン 参照

外部コマンド実行時間 0 秒

シャットダウンに必要な時間 60 秒

OS終了モード 「シャットダウン」で終了する

仮想サーバ終了モード: 「PowerAct Pro」が終了する

ゲストOS終了モード: 「休止状態」で終了する

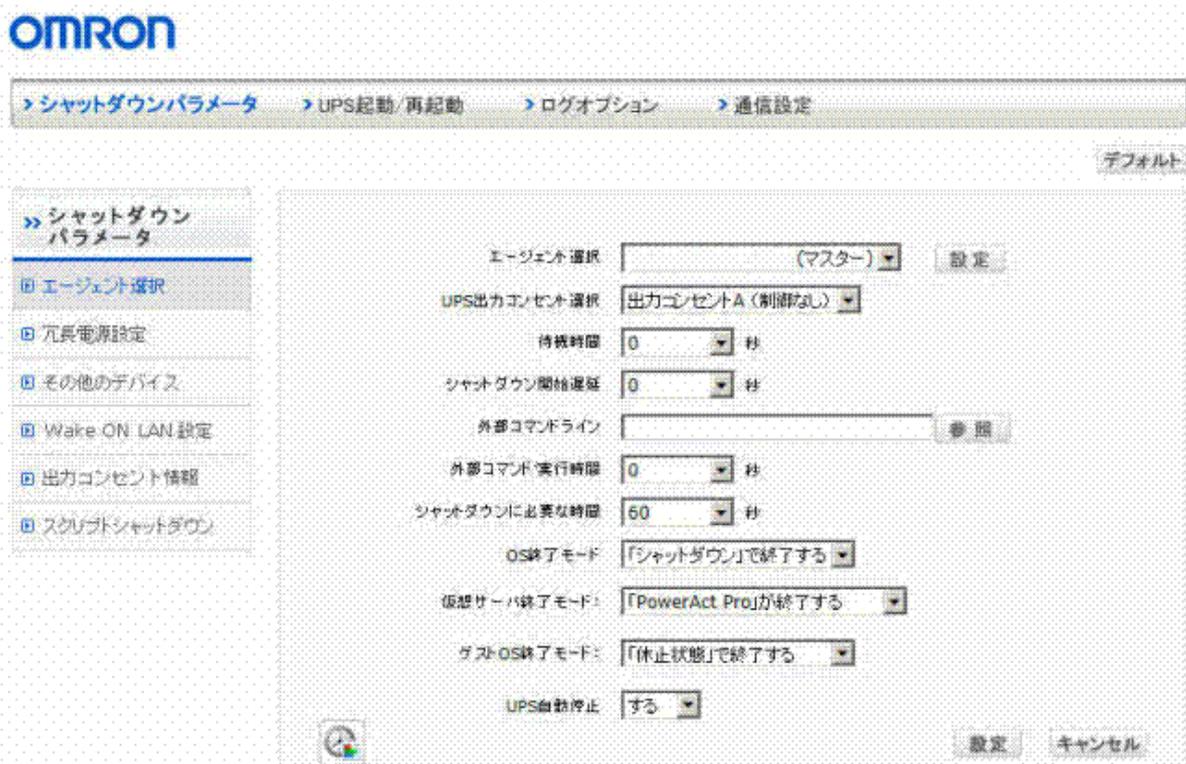
UPS自動停止 する

設定 キャンセル

- 出力コンセント選択
PC1 マスターを接続している UPS の出力コンセントを選択します。
(設定例) 出力コンセント C(制御あり)
- 待機時間
入力電源異常が発生してからシャットダウン動作を開始するまでの時間を設定します。
(設定例) 60 秒
- シャットダウン開始遅延
設定された時間だけさらにシャットダウン動作を遅延することができます。
(設定例) 60 秒
- シャットダウンに必要な時間
OS シャットダウンに必要な時間を設定します。
(設定例) 60 秒
- Windows の終了モード
Windows の終了モード「シャットダウン」または「休止状態」を選択する機能です。
(設定例) 「休止状態」で終了する
- 仮想サーバ終了モード
システムと PowerAct Pro のどちらの設定により終了するかを選択します。
(設定例) 「Poweract Pro」が終了する

- ゲスト OS 終了モード
ゲスト OS をシャットダウンと休止状態のどちらで終了するか選択します。
(設定例)「シャットダウン」で終了する
- UPS 自動停止(UPS Auto Stop)
コンピュータのシャットダウン後、UPS を自動停止するかどうかを選択する機能です。
(設定例) する

② [環境設定]-[シャットダウンパラメータ]の[エージェント選択]で「SERVER02(スレーブ)」を開き、次の設定を行います



- 出力コンセント選択
PC2 スレーブを接続している UPS の出力コンセントを選択します。
(設定例) 出力コンセント B(制御あり)
- シャットダウン開始遅延
設定された時間だけさらにシャットダウン動作を遅延することができます。
(設定例) 0 秒
- シャットダウンに必要な時間
OS シャットダウンに必要な時間を設定します。
(設定例) 60 秒
- Windows の終了モード選択
Windows の終了モード「シャットダウン」または「休止状態」を選択する機能です。
(設定例) 「休止状態」で終了する

【備考】

- スレーブがインストールされている PC が複数台ある場合には「シャットダウンパラメータ」の画面に複数台分のスレーブ設定画面が自動的に追加される。
- 設定を完了すると、設定内容はネットワークを経由してスレーブとマスターに自動的に登録される。

- ③ [環境設定]－[シャットダウンパラメータ]の[その他のデバイス]を開き、次の設定を行います。



- その他のデバイス停止時間
テープドライブを接続している UPS の出力コンセントの停止時間を入力する。
(設定例) 出力コンセント A(制御なし) 60 秒

- ④ [環境設定]—[UPS 起動/再起動]を開き、次の設定を行う。



- UPS 再起動設定

入力電源異常により自動停止した無停電電源装置(UPS)を、入力電源が復電した時に自動再起動するかどうかを設定します。

(設定例) する

- UPS 起動時の出力開始遅延時間

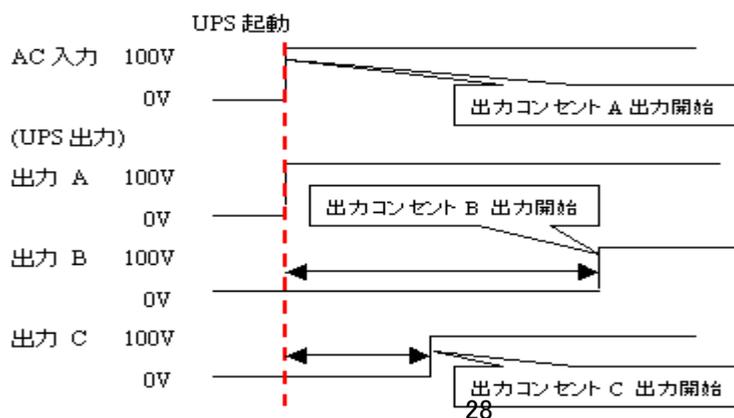
UPS が再起動したときに、出力コンセントの出力を開始する時間を設定します。

以下の設定では UPS は次のように起動します。

(設定例) 出力コンセント B(制御有り): 120 秒

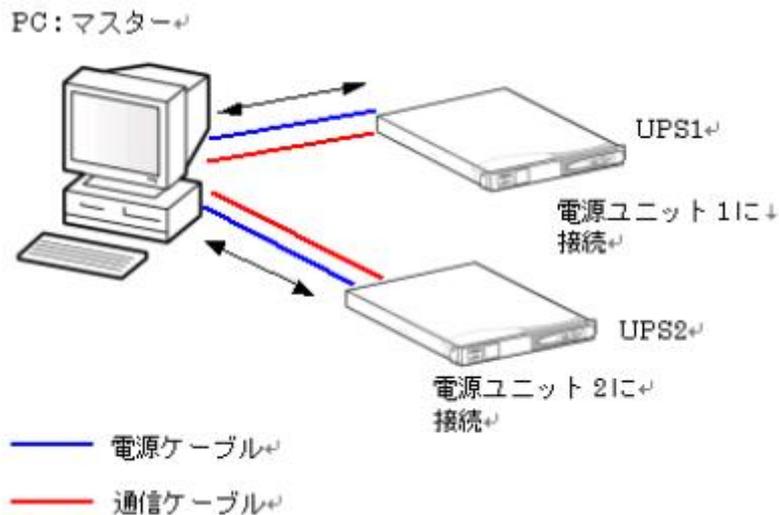
出力コンセント C(制御有り): 60 秒

(入力電源回復後の UPS と各出力コンセントの動作事例)



ケース 2: PC 1 台に UPS 2 台を接続する。

【接続構成】



【事例】

2 台の UPS が停電になった時にシャットダウンを開始したい。シャットダウンを行う場合は、必ず外部コマンドを実行してシャットダウンを行いたい。

【インストールするソフトウェア】

PowerAct Pro マスターエージェントプログラムを PC(PC 名: SERVER01)にインストールする。

【エージェント自動検索画面の表示】

エージェント自動検索画面には、マスターエージェントに対して 2 台の無停電電源装置(UPS)の型式や UPS の状態やバッテリー状態や通信状態などが表示されます。

【PowerAct Pro モニタ画面の表示】

PowerAct Pro モニタ画面の「通信ポート」を変更し、「設定」ボタンをクリックすると、各無停電電源装置(UPS)の状態をモニタ画面上で確認することができます。

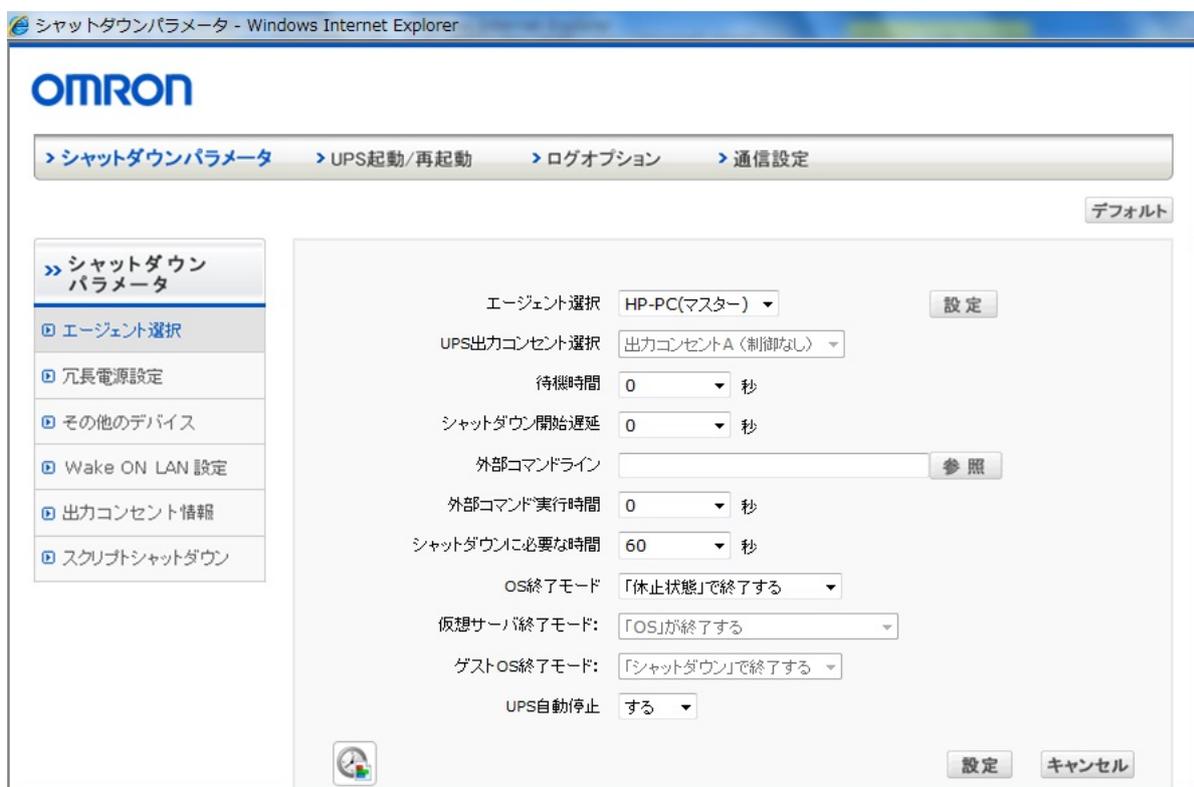
【設定手順】

2 台の無停電電源装置(UPS)は、各種設定内容を共有して使用します。

- ① [環境設定]—[シャットダウンパラメータ]の[エージェント選択]で「SERVER01(マスター)」を開き、次の設定を行います。

【注意】

- 冗長電源システムとして使用する場合は、必ず同一機種を使用すること。
- PC(マスター)の電源コードは、各無停電電源装置(UPS)とも同じ出力コンセントに接続すること



- 出力コンセント選択
PC(マスター)を接続している UPS の出力コンセントを選択します。
(設定例) 出力コンセント A(制御なし)
- 待機時間
入力電源異常が発生してからシャットダウン動作を開始するまでの時間を設定します。
(設定例) 60 秒
- シャットダウンに必要な時間
OS シャットダウンに必要な時間を設定します。
(設定例) 60 秒

- 外部コマンドライン
シャットダウン開始後に実行する外部コマンドを設定することができます。
(設定例) teiden.exe
- 外部コマンド実行時間
外部コマンドを実行する時間を設定します。設定した時間経過後に OS シャットダウン動作を行います。
(設定例) 60 秒
- Windows の終了モード選択
Windows の終了モード「シャットダウン」または「休止状態」を選択する機能です。
(設定例)「休止状態」で終了する
- 仮想サーバの終了モード選択
Windows の終了モード「シャットダウン」または「休止状態」を選択する機能です。
(設定例)「休止状態」で終了する
- UPS 自動停止
コンピュータのシャットダウン後、UPS を自動停止するかどうかを選択する機能です。
(設定例) する

4. PowerAct Pro モニタ

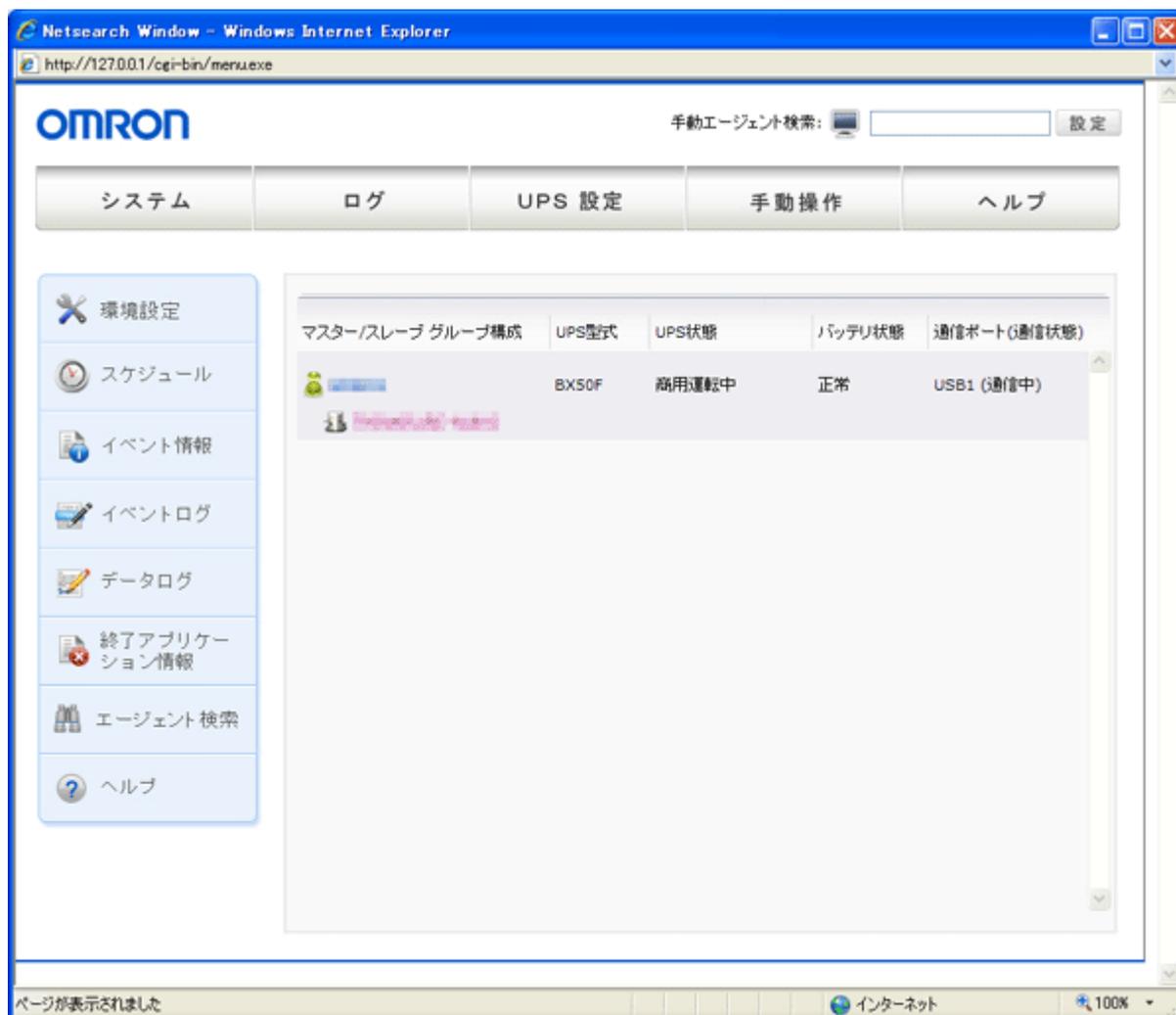
4. 1 モニタメニュー

4. 1. 1 システム

4. 1. 1. 1 エージェント自動検索

同一ネットワーク内のエージェントが自動検索され、[エージェント自動検索]画面に表示されます。

[エージェント自動検索]画面



[エージェント自動検索]画面の表示項目の内容は次のとおりです。

表示	内容
マスター/スレーブ グループ構成	エージェント名、マスター、スレーブの区分、グループ構成が表示されます。
UPS 型式	接続されている無停電電源装置(UPS)の型式が表示されます。
UPS 状態	無停電電源装置(UPS)の運転状態が表示されます。
バッテリー状態	バッテリーの状態が表示されます。
通信ポート(通信状態)	通信ポートの動作状態が表示されます。
アドレス入力欄	マスターエージェントがインストールされたコンピュータの IP アドレスを入力して[Enter]キーを押すと、指定したマスターが存在する場合、[ログイン]画面が表示されます。 指定したマスターエージェントが検出されない場合は、エラーメッセージが表示されます。

4. 1. 1. 2環境設定

(1)シャットダウンパラメータ

[シャットダウンパラメータ]設定では、シャットダウンに関する時間や警告メッセージを表示するタイミングを設定します。ご使用のシステムに適した時間を設定してください。

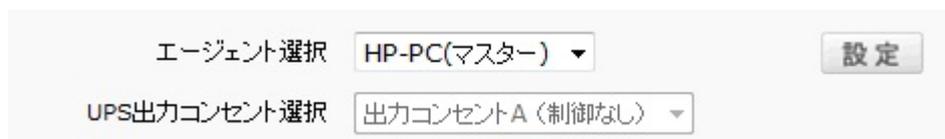
[シャットダウンパラメータ]設定画面は、次の手順で表示、設定を行います。

- ① [PowerAct Pro モニタ]画面を表示します。
- ② [システム]メニュー→[環境設定]の順に選択するか、左側のメニューから[環境設定]を選択します。
- ③ [シャットダウンパラメータ]画面が表示されます。

[エージェント選択]画面



- ④ シャットダウンパラメータを設定するマスターまたはスレーブを選択します。[エージェント選択]のプルダウンメニューに表示されるリストから選択してください



項目	設定内容と方法
UPS 出力コンセント 選択	<p>接続している負荷をどの出力コンセントに接続するか選択します。出力コンセントは、制御できるコンセントとできないコンセントがあります。</p> <p>[注意] 出力コンセント制御をサポートしていない無停電電源装置(UPS)をご使用する場合は、この機能は使用できません。</p>
待機時間	<p>電源異常が発生してからシャットダウン動作を開始するまでの待機時間を秒単位で設定します。</p> <p>0～36000秒の範囲で選択できます。(デフォルトは60秒。0～60秒までは10秒間隔、60～36000秒までは60秒間隔)</p>
シャットダウン開始遅延	<p>シャットダウン開始後に、さらにシャットダウン開始を遅延させたい場合に、この時間を設定します。</p> <p>60秒間隔で0～600秒の範囲で選択できます。(デフォルトは0秒)</p>

外部コマンドライン	シャットダウン動作が開始されると同時に起動されるプログラムを指定します。例えば、バックアップデータを特定のディスクに保存するなどのプログラムが考えられます。
外部コマンド実行時間	外部コマンドの実行に必要な時間を設定します。60 秒間隔で 0～600 秒の範囲で設定できます。 なお、この時間が経過するまでは、シャットダウン動作を一時停止します。(デフォルトは 0 秒)
シャットダウンに必要な時間	OS のシャットダウンに必要な時間を設定します。 60 秒間隔で 0～1800 秒の範囲で選択できます。(デフォルトは 180 秒)
OS の終了モード	終了モードを「休止状態」と「シャットダウン」から選択します。
仮想サーバ終了モード	システムと PowerAct Pro のどちらの設定により終了するかを選択します。 本機能は、Hyper-V に対応した OS で使用できます。
ゲスト OS 終了モード	ゲスト OS をシャットダウンと休止状態のどちらで終了するか選択します。 本機能は、Hyper-V に対応した OS で使用できます。
UPS 自動停止	コンピュータのシャットダウンが完了した後、UPS を自動的に停止させるかどうかを設定します。
[デフォルト]ボタン	クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。

【注意】

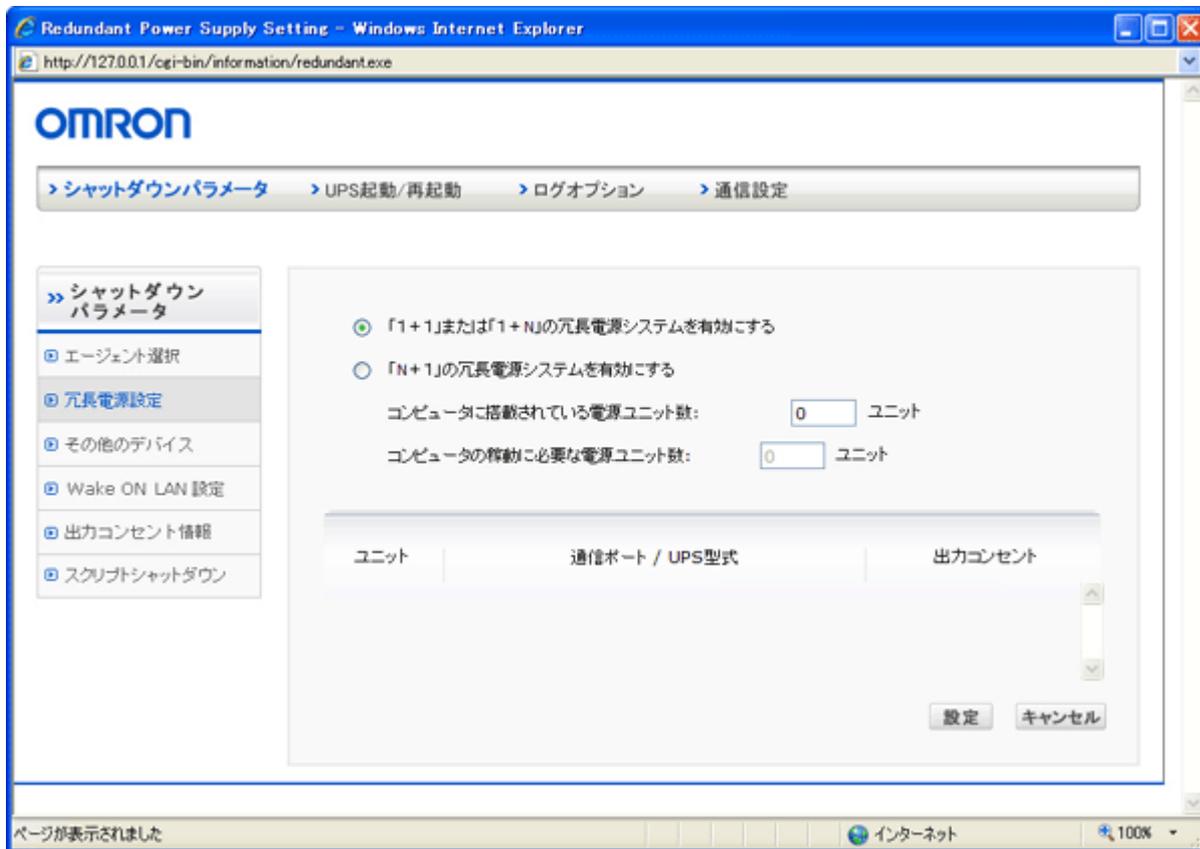
「シャットダウン開始遅延」+「外部コマンド実行時間」+「シャットダウンに必要な時間」の合計時間は、出力コンセント制御機能のない無停電電源装置(UPS)では最大 600 秒、出力コンセント制御機能のある無停電電源装置(UPS)では最大 1800 秒に制限されます。

Hyper-V(仮想化環境)で使用される場合、「外部コマンド実行時間(秒)」は、仮想 OS のシャットダウンに必要な時間以上を設定してください。

- ⑤ [設定]ボタンをクリックします。

- ⑥ [冗長電源の設定]を選択します。この画面で冗長電源の方式と必要なパラメータを設定します。

[冗長電源設定]画面



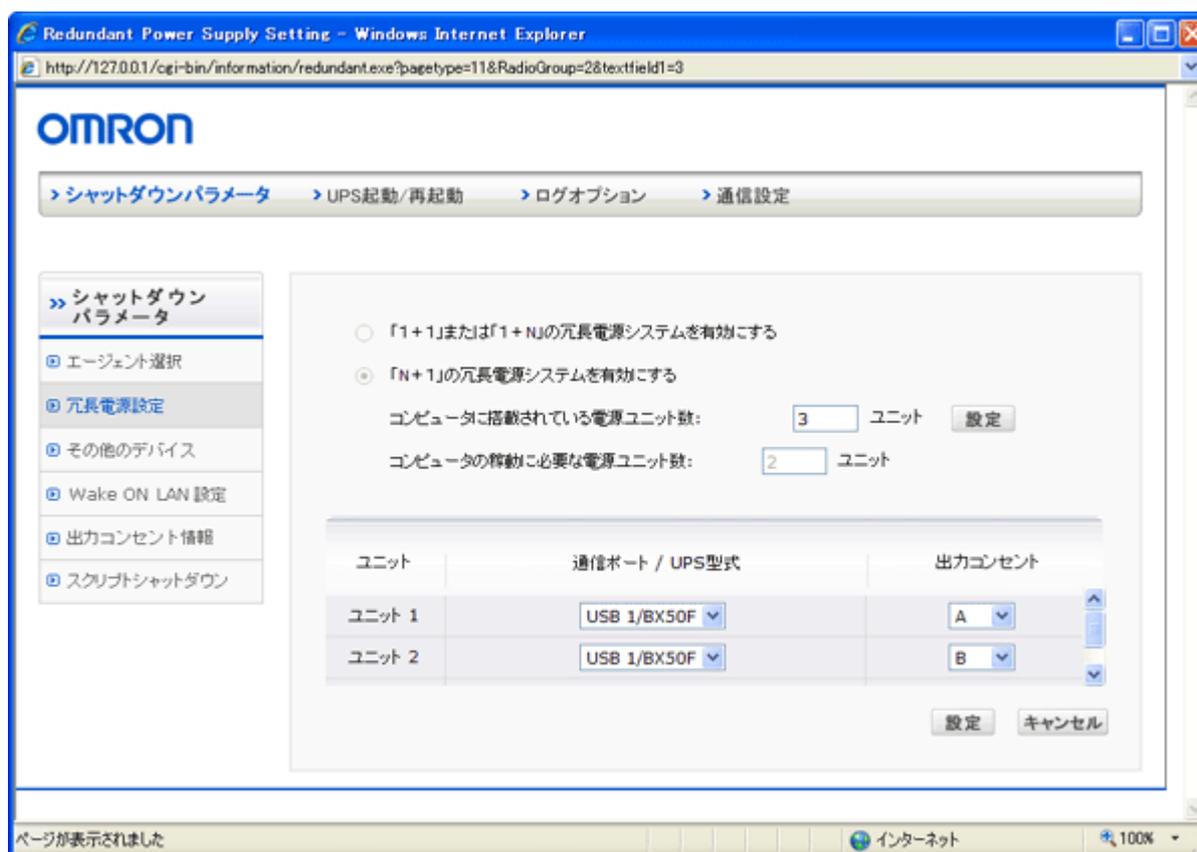
- ⑦ 冗長電源の方式を以下から選択します。

“1+1 または 1+N”冗長電源システム

コンピュータに接続した複数の無停電電源装置(UPS)の内、最低 1 台以上の無停電電源装置(UPS)が正常動作していれば、PC サーバはシャットダウン動作を開始しないシステム。すべての無停電電源装置(UPS)で入力電源異常が発生した場合のみ、シャットダウン動作を開始します。こちらを選択した場合は、[設定]ボタンをクリックしてから、手順⑧に進んでください。

“N+1”冗長電源システム

無停電電源装置(UPS)から電力供給を受けている PC サーバの電源ユニットの数が、“N”台以下になるような場合に、シャットダウン動作を開始します。こちらを選択した場合は、コンピュータ搭載電源ユニット数を入力し、[設定]ボタンをクリックします。



項目	設定内容と方法
コンピュータに搭載されている電源ユニット数	コンピュータに搭載されている電源ユニット総数を入力します。値を変更したときは、入力欄の右横にある[設定]ボタンをクリックして動作に必要な電源ユニット数を計算してください。
コンピュータの稼動に必要な電源ユニット数	コンピュータが正常に動作を継続するために必要な電源ユニット数の計算値が表示されます。
ユニット	コンピュータの電源ユニットを表しています。
通信ポート／UPSの型式	各電源ユニットに接続している無停電電源装置(UPS)の型式と通信ポートを表示します。無停電電源装置(UPS)の型式と通信ポートを選択する場合は、プルダウンリストから選択してください。
出力コンセント	コンピュータの電源ユニットを接続している出力コンセントを指定します。

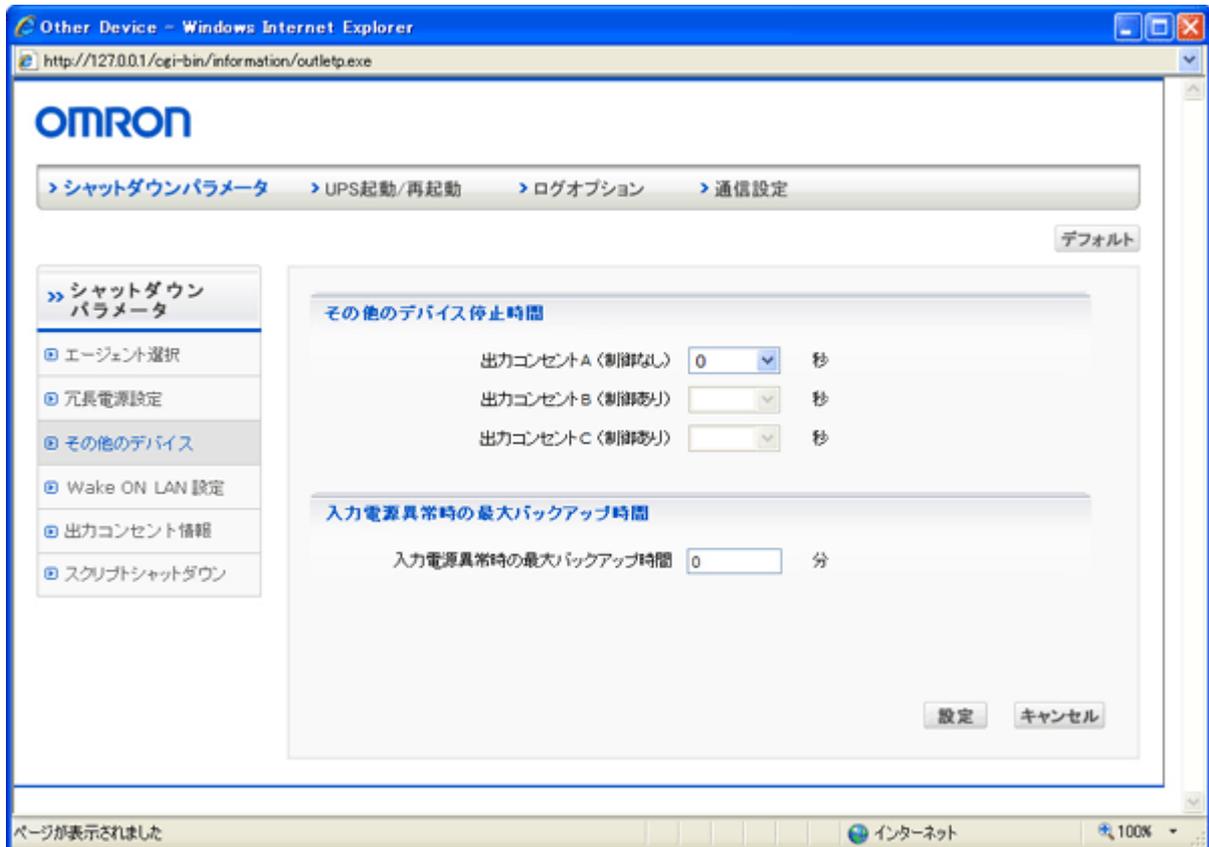
【注意】

無停電電源装置(UPS)に複数の電源ユニットを接続する際は、電源ユニットの合計供給電力が無停電電源装置(UPS)の供給電力を上回らないように接続してください。

⑧ [設定]ボタンをクリックします。

- ⑨ [その他のデバイス]を選択し、各コンセントの[その他のデバイス停止時間]を 0～600 秒の範囲で入力欄右側の矢印をクリックして表示されるリストから選択して設定します。出力コンセント制御機能のない無停電電源装置(UPS)では、出力コンセント B および C の項目は設定できません。

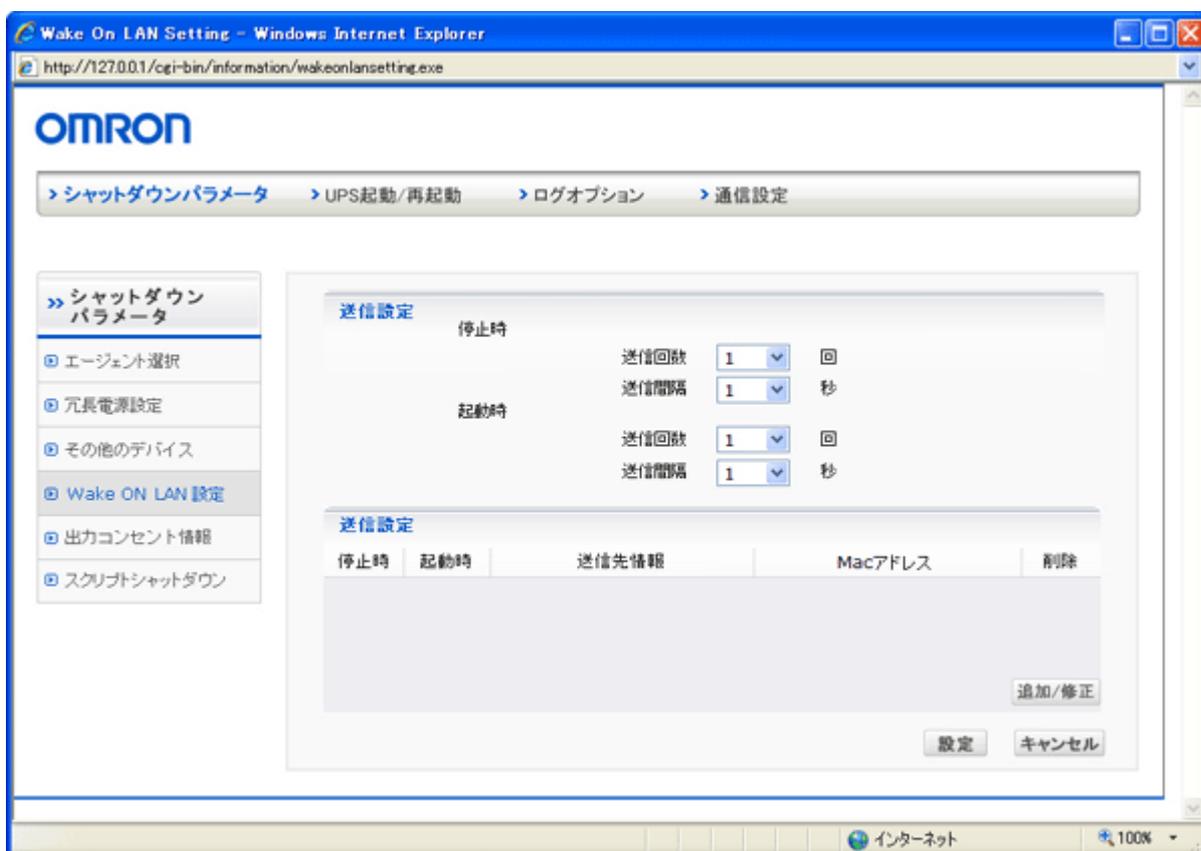
[その他のデバイス]画面



- ⑩ [設定]ボタンをクリックします。

- ⑪ [Wake ON LAN 設定]を選択します。この機能を設定すると、あらかじめ Mac アドレスを登録した Wake ON LAN 対応のコンピュータを LAN 経由でスタンバイ状態(休止状態)から回復することができます。
- ⑫ 送信設定で、Wake On LAN パケットの送信回数および送信間隔を選択します。
- ⑬ 送信設定のリストでは、[停止時]または[起動時]にチェックを付けたアドレス宛に Wake On LAN パケットが送信されます。
アドレスをリストから削除する場合は、削除ボタンをクリックします。
- ⑭ アドレス情報の登録や修正を行う場合は、[設定]の[追加/修正]ボタンをクリックします。

[Wake On LAN 設定]画面

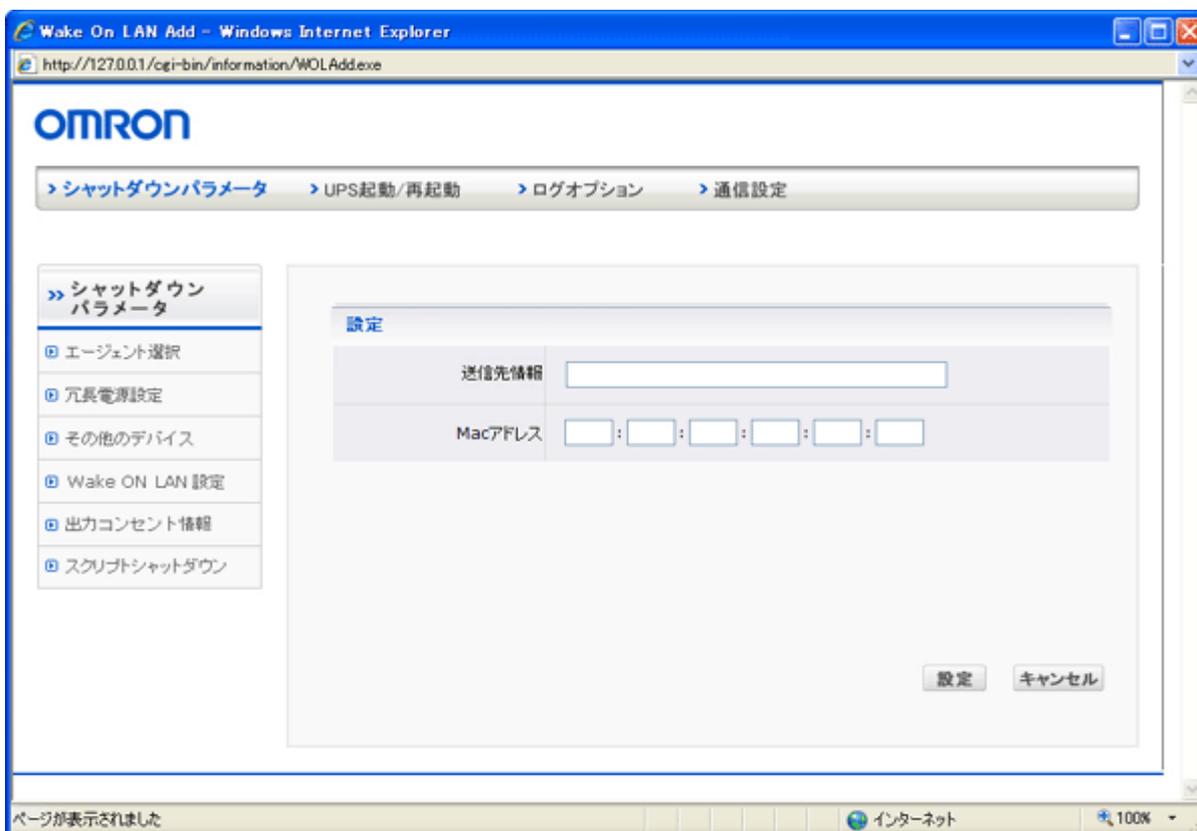


●登録情報の修正

[Mac アドレス]に直接入力することによってアドレスを修正できます。アドレスを削除する場合は、[選択]のチェックを外して[設定]をクリックします。

[追加(新規)]をクリックすると、リストにアドレスを追加できます。

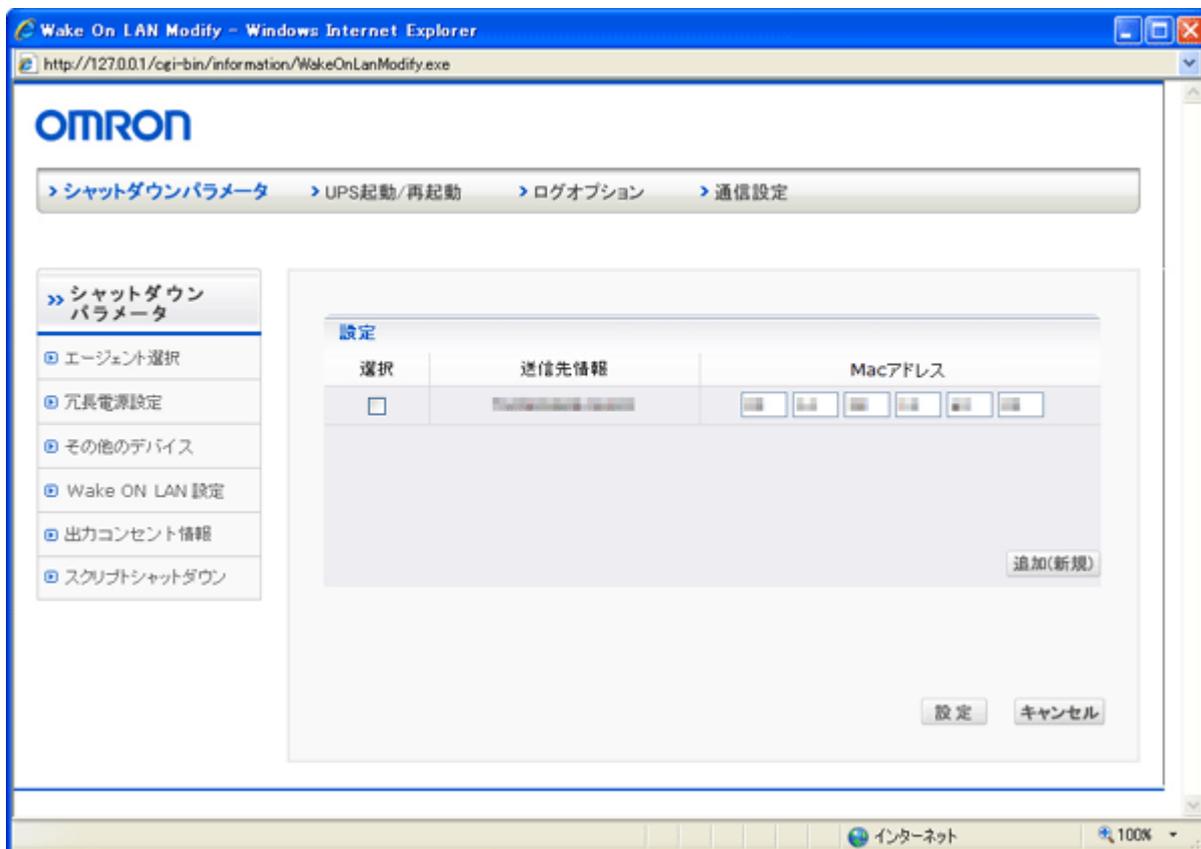
※マスターエージェントにログインし、連携しているスレーブエージェントのアドレスは自動的にリストに表示されます。



●登録情報の追加

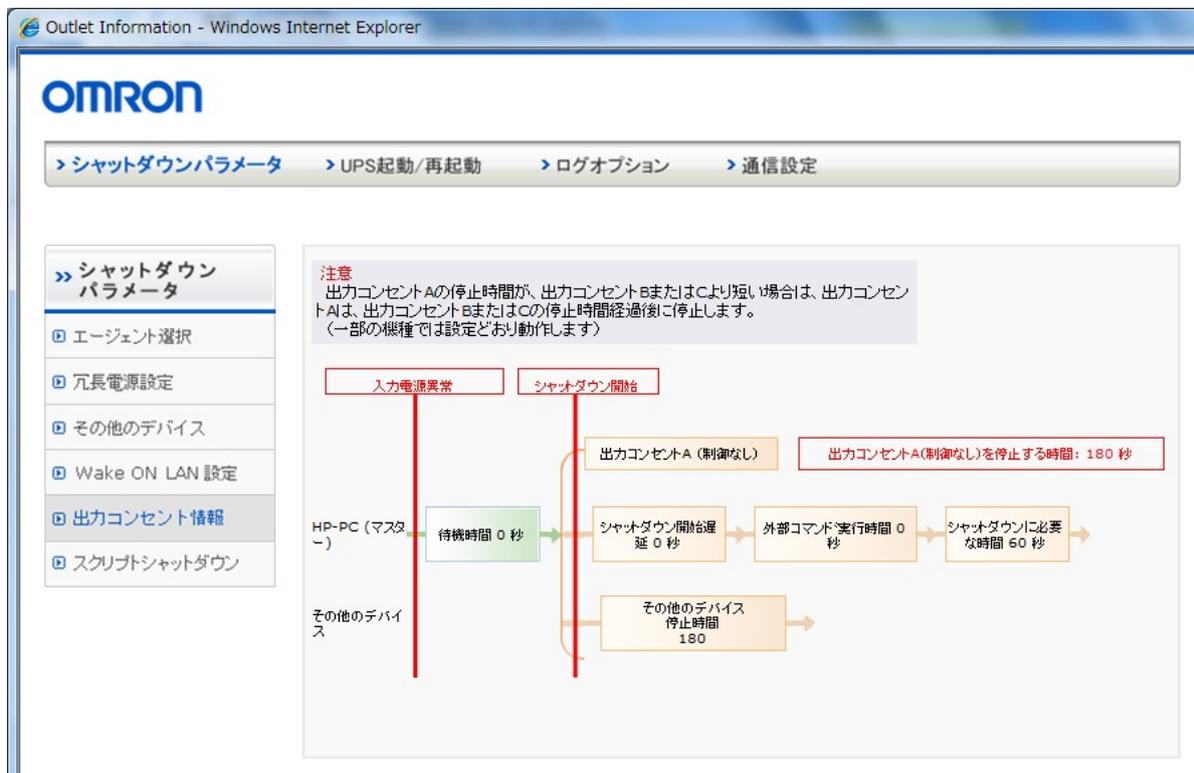
[送信先情報]に送信先を識別する言葉を入力し、[Mac アドレス]に送信先の MAC アドレスを入力します。

[設定]をクリックすると、上記のアドレス修正リストに送信先が追加されます。



- ⑮ [出力コンセント情報]を選択します。出力コンセントごとに設定時間のタイミングチャートが表示されるので、設定内容を確認します。確認が終わったら[X](閉じる)ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

[出力コンセント情報]画面



【注意】

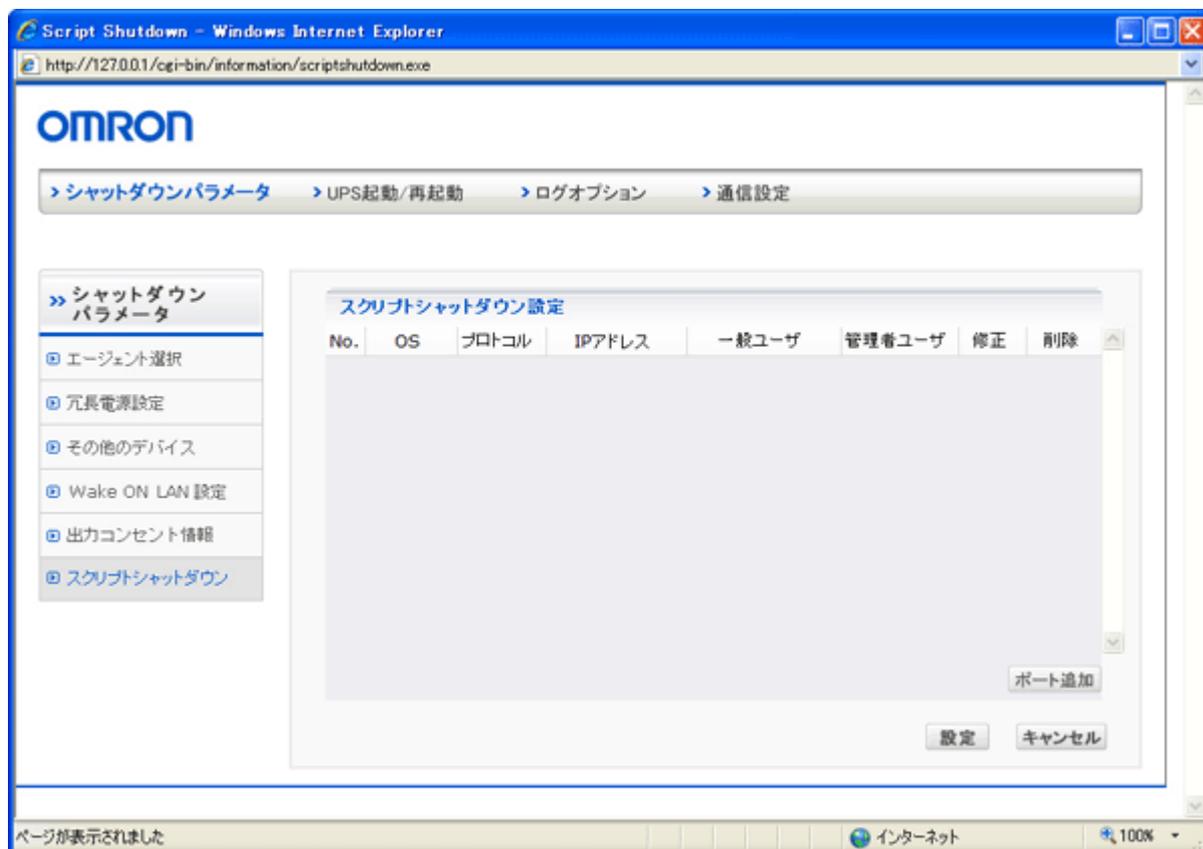
出力コンセントAの停止時間が、出力コンセントBまたはCより短い場合は、出力コンセントAは、出力コンセントBまたはCの停止時間経過後に停止します。

以下の機種では出力コンセントAの停止時間は出力コンセントBまたはCに関わらず設定どおり動作します。

BU75RW / BU100RW / BU200RW / BU300RW / BN220S / BN300S

- ⑯ スクリプトシャットダウンを選択すると、UPS に接続されている機器に対して直接スクリプトを送信し、スレーブエージェントの有無によらないシャットダウン操作の実行を設定する事が出来ます。

[スクリプトシャットダウン]画面



●登録情報の追加

[追加]をクリックするとスクリプトシャットダウン設定画面が開きます。スクリプトシャットダウンしたい機器に合わせて設定を行ってください。

[設定]をクリックすると、スクリプトシャットダウン設定リストに送信先が追加されます。



項目	設定内容と方法
OS	スクリプトシャットダウンを実行したい機器の OS を選択します。
プロトコル	マスターエージェントが使用する通信方法を指定します。 SSH、Telnet の 2 種類に対応しています。
IP アドレス	スクリプトシャットダウンを実行したい機器の IP アドレスを入力します。
接続機器名	スクリプトシャットダウンを実行したい機器の識別名を任意の文字列で設定します。
一般ユーザ ID	スクリプトシャットダウンを実行したい機器のログインに有効な一般ユーザ名を指定します。
一般ユーザパスワード	スクリプトシャットダウンを実行したい機器のログインに有効な一般ユーザパスワードを指定します。
管理者ユーザ ID	スクリプトシャットダウンを実行したい機器のログインに有効な管理者名を指定します。Linux/Mac/Unix に対し必要であれば入力してください。Windows では不要です。

管理者ユーザパスワード	スクリプトシャットダウンを実行したい機器のログインに有効な管理者パスワードを指定します。Linux/Mac/Unix に対し必要であれば入力してください。Windows では不要です。
リトライ回数	ログインに失敗した際の再試行の回数を選択します。
タイムアウト(秒)	ログインの際のタイムアウト時間を任意で設定します。 0 秒から 65536 秒まで設定可能です。
コマンドライン	マスターエージェントがシャットダウン動作を開始した際に実行するコマンドラインを指定します。「;」で区切ることで複数のコマンドを設定できます。 シャットダウンコマンド例: 【Windows】 shutdown -s 【Linux】 /sbin/halt 【Mac】 /sbin/halt 【Unix】 /sbin/halt
スクリプトシミュレーション	[テスト]ボタンをクリックすると、設定した内容でテストを実行することができます。

【参考】

スクリプトシャットダウンの実行については、「PowerAct Pro の環境設定」内「[UPS 起動/再起動]の設定」をご参照ください。

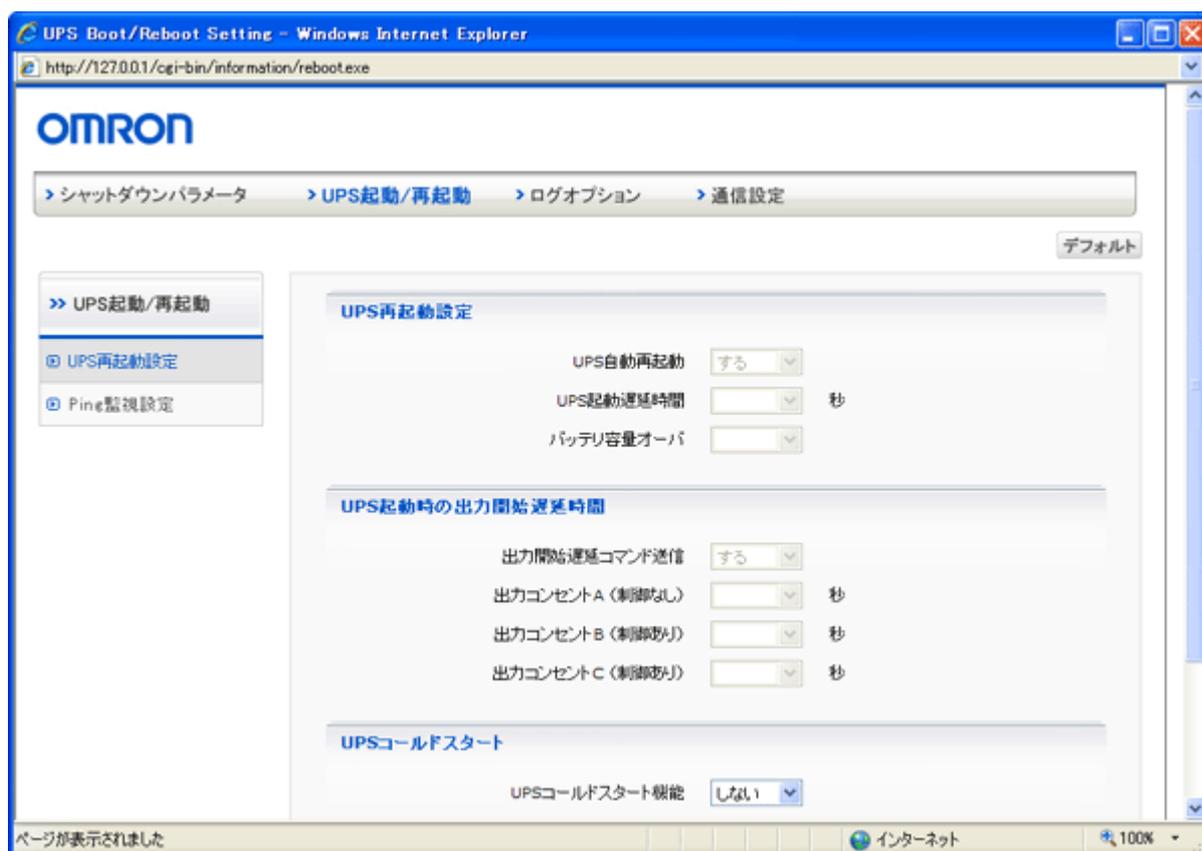
(2)UPS 起動／再起動

[UPS 起動／再起動]設定では、シャットダウン後、電源異常が回復したときに無停電電源装置(UPS)の再起動方法を設定します。

[UPS 起動／再起動]設定画面は、次の手順で表示、設定を行います。

- ① [PowerAct Pro モニタ]画面を表示します。
- ② [システム]メニュー→[環境設定]の順に選択します。
- ③ [UPS 再起動設定]を選択します

[UPS 再起動設定]画面



- ④ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は次のとおりです。

項目	設定内容と方法
UPS 自動再起動	<p>電源異常が回復した後で、無停電電源装置(UPS)を再起動するかどうかを設定します。</p> <p>入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから「する」または「しない」を選択します。</p> <p>[注意] 設定スイッチで再起動を指定する無停電電源装置(UPS)では設定できません。</p>

UPS 起動遅延時間	電源異常が回復した後で、無停電電源装置(UPS)を再起動するまでの待ち時間を設定します。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
バッテリー容量オーバ	無停電電源装置(UPS)に対する接続機器の容量の上限を設定します。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
UPS 起動時の出力開始遅延時間	無停電電源装置(UPS)が起動するときに、出力コンセント別に出力遅延時間を秒単位で設定します。 ただし、出力コンセント A については 0 秒固定です。 例えば、コンピュータ本体が起動する前に電源を入れておきたいテーブルドライブを出力コンセント A に接続し、コンピュータ本体を出力コンセント B または C に接続し遅延時間を設定することによって、起動時間に時差を設けることができます。 [注意] 出力コンセント制御機能のない無停電電源装置(UPS)を接続している場合は設定できません。
UPS コールドスタート機能	UPS コールドスタート機能を有効にするかどうかを設定します。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから「する」または「しない」を選択します。
[デフォルト]	クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。

⑤ [設定]ボタンをクリックします。

- ⑥ Ping 監視設定を選択すると、定期的な Ping の送信による、接続された機器類の死活監視を設定する事ができます。

[Ping 監視設定]画面



- ⑦ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は次のとおりです。

項目	設定内容と方法
通信ポート	どの通信ポートを使用して Ping を送信するかを設定します。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
送信回数	Ping を合計何回送信するかを指定します。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
間隔	各 Ping 間のインターバル時間を指定します。単位は分です。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
IP アドレス	接続されている機器の IP アドレスを指定します。
商品名	機器の識別名を任意で入力します。
スクリプトシャットダウン	スクリプトシャットダウンを使用するかどうかを指定します。 使用する場合はチェックを付けて下さい。
合格回数 (Pass Rate)	送信回数で設定した Ping 送信回数の内、何回受信に成功すれば機器を正常とみなすかを指定します。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。

Ping 監視で異常とする 台数	その出力コンセントに接続されている全ての機器の内、何台にエラーが検知された時に選択した動作を実行するか指定します。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
動作	実行されるアクションを指定します。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
設定	クリックすると、各項目の設定が確定されます。

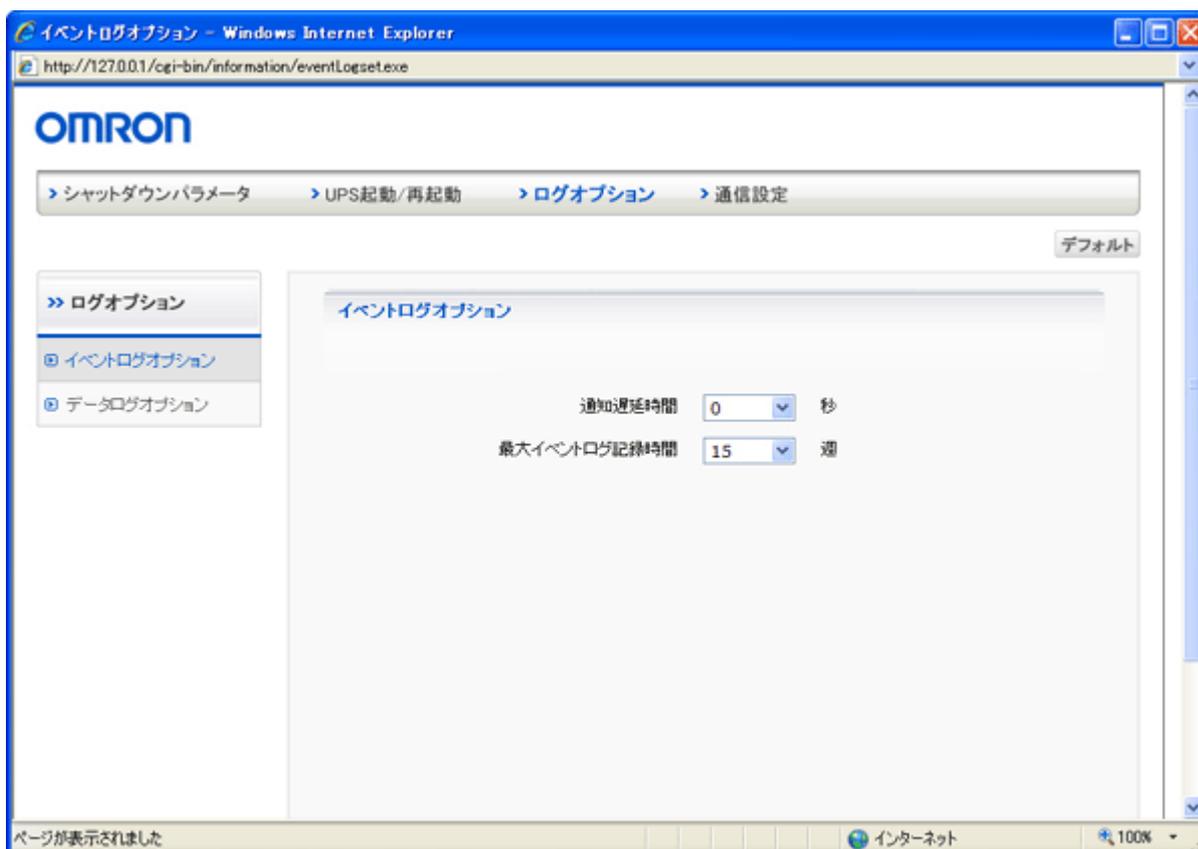
⑧ [設定]ボタンをクリックします。

(3) ログオプション

[ログオプション]設定では、イベントログやデータログの容量や記録時間間隔などを設定します。[ログオプション]設定画面は、次の手順で表示、設定を行います。

- ① [PowerAct Pro モニタ]画面を表示します。
- ② [システム]メニュー→[環境設定]の順に選択します。
- ③ [イベントログオプション]を選択します。

[イベントログオプション]画面



④ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容与方法
通知遅延時間	イベントが発生してからそれをユーザに通知するまでの待ち時間を秒単位で設定します。入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
最大イベントログ記録時間	イベントログの最大保存数を週単位で設定します。入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。設定範囲は1～15週(デフォルト15週)です。
デフォルト	クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。

⑤ [設定]ボタンをクリックします。

⑥ [データログオプション]を選択します。

[データログオプション]画面



⑦ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容与方法
最大データログ記録時間	データログの最大保存数を週単位で設定します。入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。設定範囲は1～15週(デフォルト15週)です。
記録間隔(商用運転時)	商用電源で運転中のデータログの記録間隔を秒単位で設定します。入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。設定範囲は5～30000秒(デフォルト60秒)です。
記録間隔(バックアップ)	バックアップ運転中のデータログの記録間隔を秒単位で設定します。

運転時)	入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。設定範囲は 5～30000 秒(デフォルト 10 秒)です。
デフォルト	クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。

⑧ [設定]ボタンをクリックします。

(4)通信設定

[通信設定]設定では、通信ポート、ネットワークポートアドレス、ユーザ通知用のメールサーバを設定します。

[通信設定]設定画面は、次の手順で表示、設定を行います。

- ① [PowerAct Pro モニタ]画面を表示します。
- ② [システム]メニュー→[環境設定]の順に選択します。
- ③ [通信設定]を選択します

[通信設定]画面



- ④ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

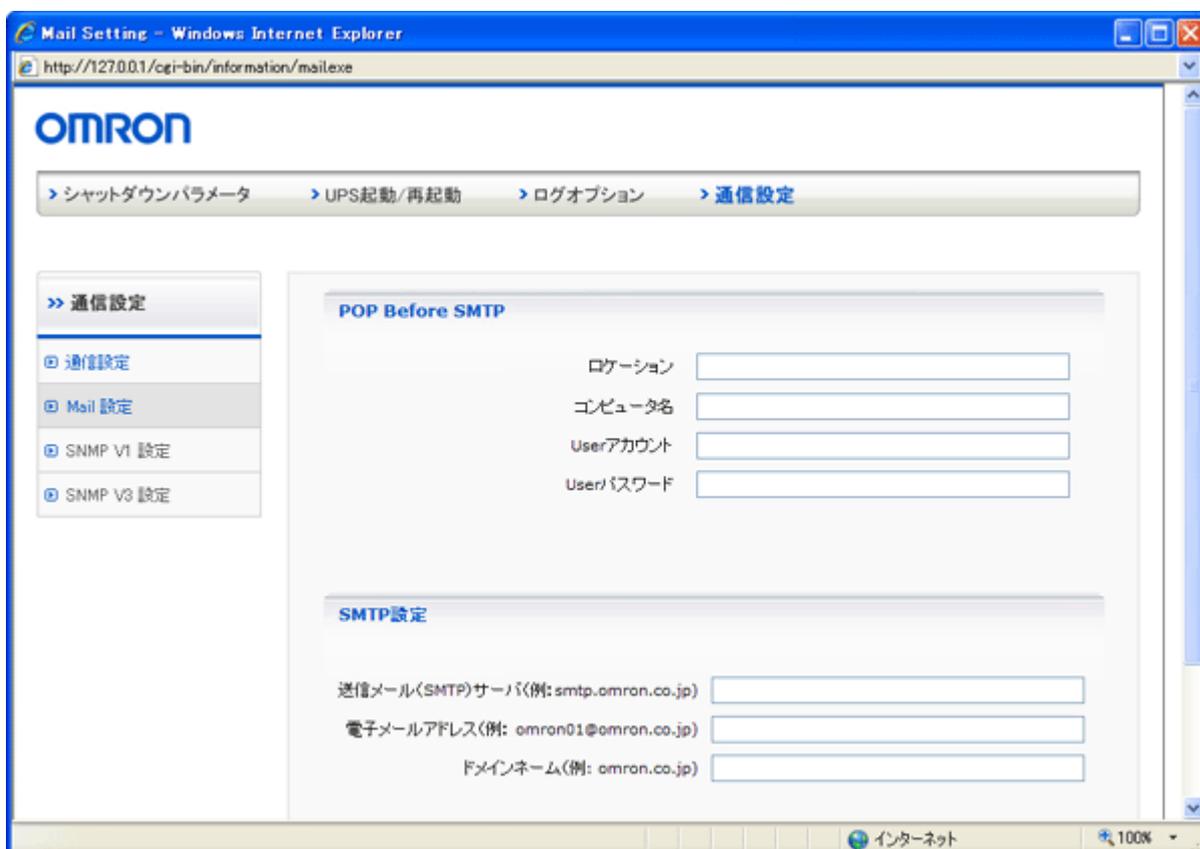
項目	設定内容と方法
ポート追加	クリックすると表示される[通信ポートの追加設定]画面で通信ポートを追加できます。追加した通信ポートは通信ポート一覧に表示されます。

(通信ポート)修正	通信ポート一覧の修正欄の  マークをクリックするとその欄の通信ポートを変更できます。
(通信ポート)削除	通信ポート一覧の削除欄の  マークをクリックするとその欄の通信ポートが削除されます。
自動選択	クリックすると、コンピュータのすべての通信ポートが検索され、見つかった無停電電源(UPS)が通信ポート一覧に表示されます。
ネットワークポート アドレス	ご使用のネットワークの状況に合わせて、HTTP ポートのポート番号を設定します。デフォルトでは 80 を設定します。 また、リモートアクセス禁止することで、リモート PC からの操作を禁止することができます。
ページ更新設定	PowerAct Pro モニタの画面更新間隔を秒単位で設定します。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
ログオフ時間	PowerAct Pro モニタの自動ログオフ時間を設定します。 入力欄右端の矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
デフォルト	クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。

⑤ [設定]ボタンをクリックします。

⑥ [Mail 設定]を選択します。

[Mail 設定]画面



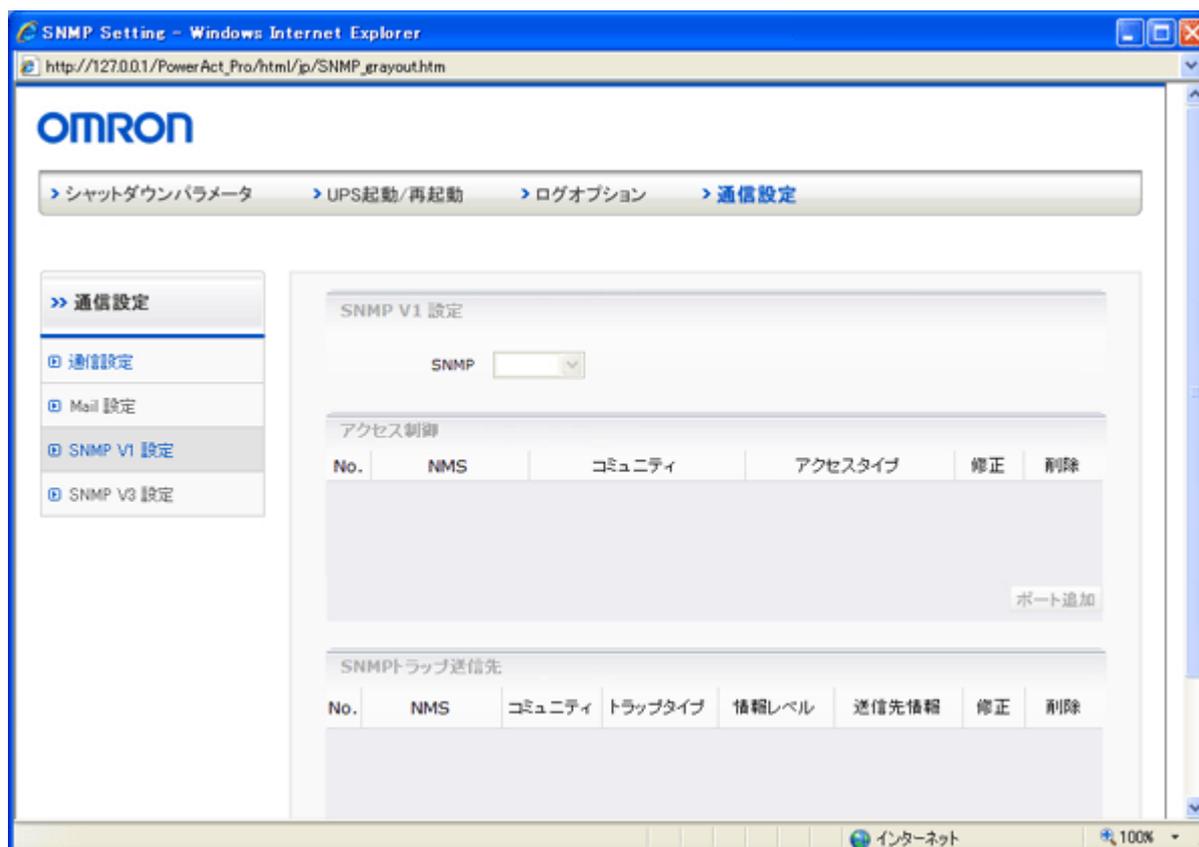
- ⑦ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容と方法
ロケーション	設置場所の名称を入力してください。
コンピュータ名	コンピュータ名を入力してください。
User アカウント	POP 認証の為に User アカウント情報を入力します。
User パスワード	POP 認証の為に User パスワードを入力します。
送信メール(SMTP) サーバー	ユーザへのイベント通知を行うためのメールを送信するサーバを設定します。 【注意】 SMTP 認証のメールサーバではご利用いただけません。
電子メールアドレス	送信元のメールアドレスを設定します。
ドメインネーム	メールサーバが所属するドメイン名を設定します。

- ⑧ [設定](OK)ボタンをクリックします。

- ⑨ [SNMP V1 設定]を選択します。

[SNMP V1 設定]画面

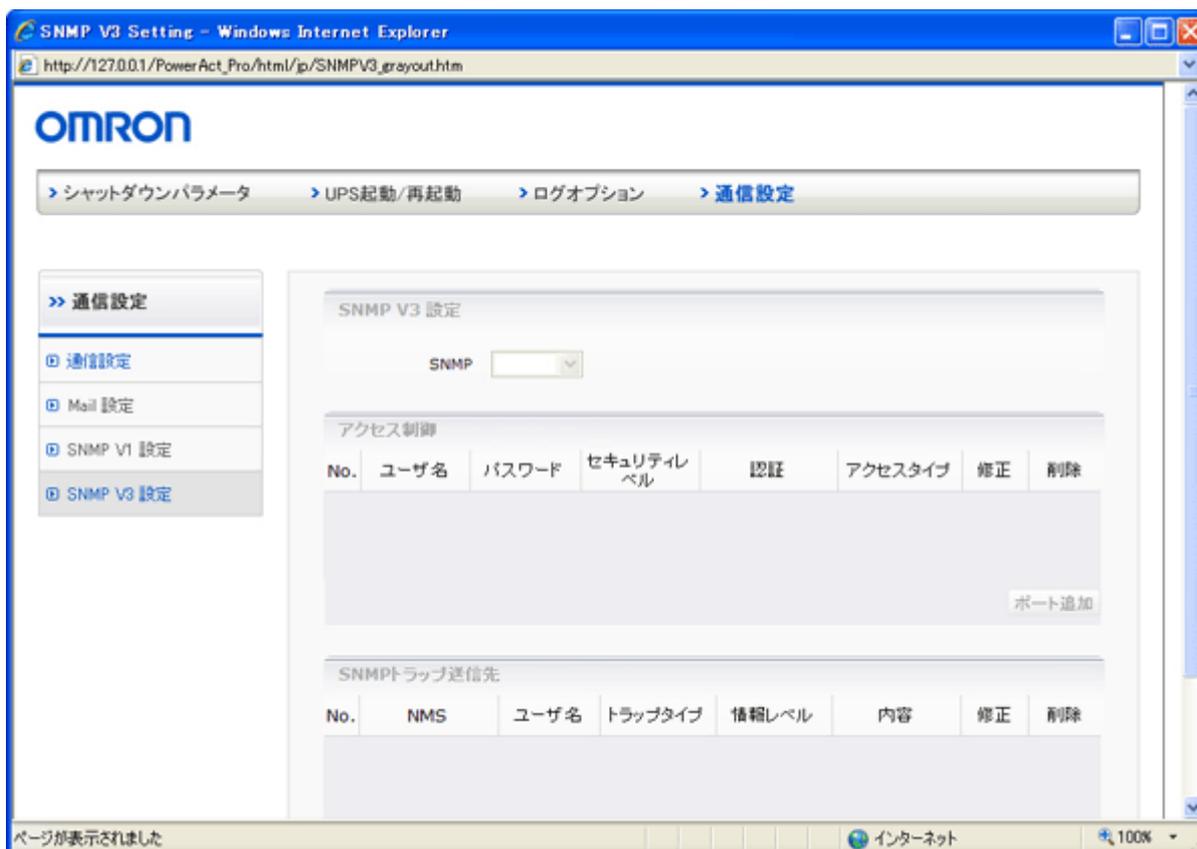


- ⑩ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容と方法
NMS IP Address	NMS の IP アドレスを設定します。0.0.0.0 の場合は設定されていないことを表します。 (例:192.168.7.255 が設定されている場合は、IP アドレスの 192.168.7.0 から 192.168.7.255 までの範囲が設定されたことになります。)
コミュニティ	設定された IP アドレスのコミュニティを設定します。
アクセスタイプ	アクセス不可、リード、リード/ライトの 3 種類から設定が可能です。
(通信ポート)修正	通信ポート一覧の修正欄の  マークをクリックするとその欄の通信ポートを変更できます。
(通信ポート)削除	通信ポート一覧の削除欄の  マークをクリックするとその欄の通信ポートが削除されます。

- ⑪ [設定]ボタンをクリックします。
- ⑫ [SNMP V3 設定]を選択します。

[SNMP V3 設定]画面



- ⑬ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容と方法
ユーザ名	SNMP マネージャで設定したユーザ名を入力します。 ※設定するセキュリティレベルによって不要場合があります。
パスワード	SNMP マネージャで設定したパスワードを入力します。 ※設定するセキュリティレベルによって不要場合があります。
セキュリティレベル	設定したユーザのセキュリティレベルを noAuthNoPriv、authNoPriv、authPriv の 3 種類から設定可能です。通信を行う SNMP マネージャと同一の設定にしてください。
認証	認証方法を HMAC-MD5、HMAC-SHA の 2 種類から設定可能です。通信を行う SNMP マネージャと同一の設定にしてください。
アクセスタイプ	リードオンリー、リード/ライトを選択できます。
(通信ポート)修正	通信ポート一覧の修正欄の  マークをクリックするとその欄の通信ポートを変更できます。
(通信ポート)削除	通信ポート一覧の削除欄の  マークをクリックするとその欄の通信ポートが削除されます。

⑭ [設定]ボタンをクリックします。

4. 1. 1. 3 イベント情報種類

無停電電源装置(UPS)で発生するイベント一覧の表示、イベントを通知するコンピュータ(ユーザ)を指定します。

また、各イベントは発生の都度、ネットワークに接続されているコンピュータ(ユーザ)に通知することができます。

【注意】

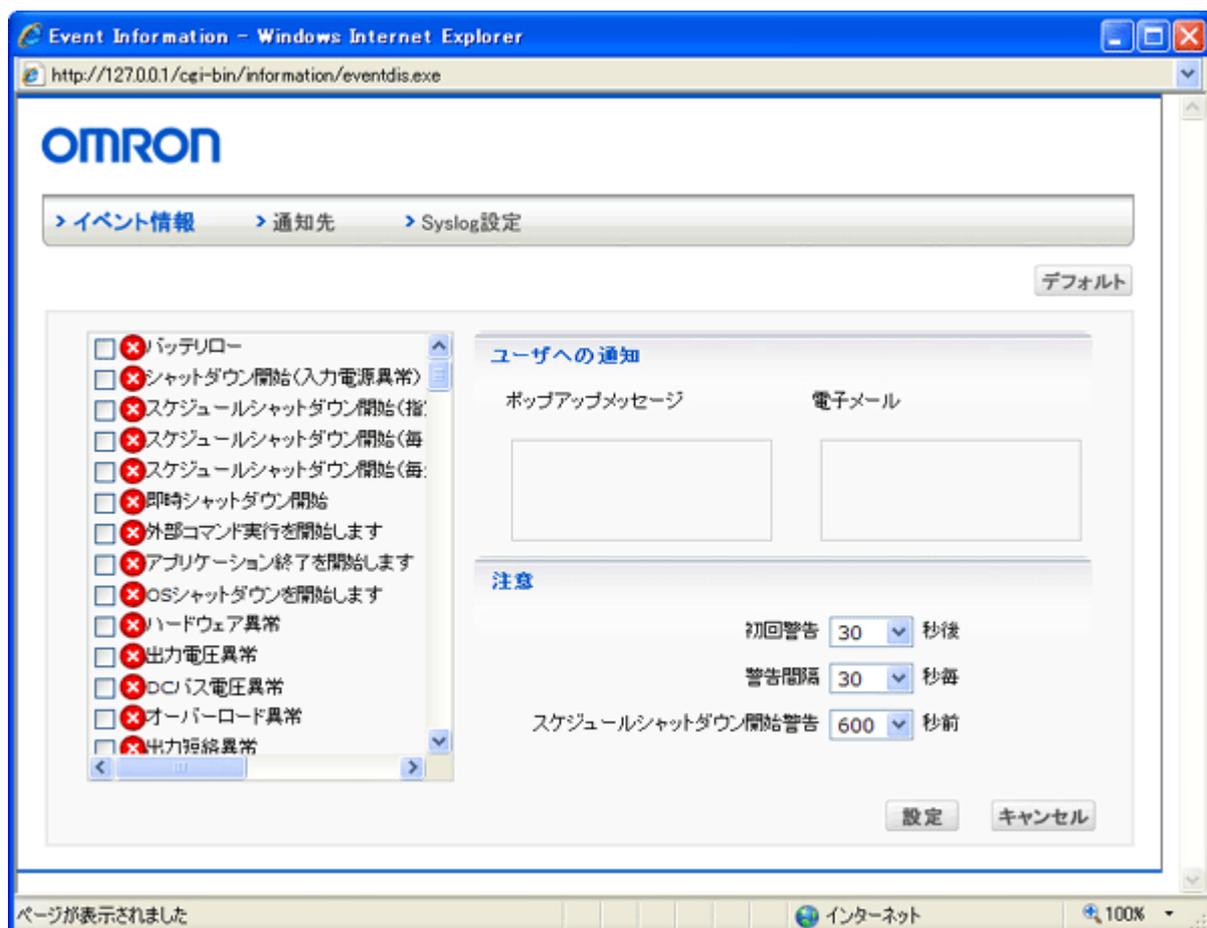
初期設定値は、すべてのイベントが通知されないようになっています。

イベント情報を通知するコンピュータ(ユーザ)の指定

どのイベントをどのコンピュータ(ユーザ)に通知するか指定できます。

設定をする時は、ツールバーの  イベント情報 ボタンをクリックし、次の[イベント情報]画面を表示してください。

[イベント情報]画面



[イベント情報]画面の各項目の意味は、次のとおりです。

項目	意味								
イベント内容	<p>イベント情報を選択することができます。</p> <p>各イベント情報の内容は、「4.3.1 イベント情報の内容」を参照してください。</p> <p>各イベント内容の先頭に記載されている記号の意味は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>意味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>重大</td> </tr> <tr> <td></td> <td>警告</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情報</td> </tr> </tbody> </table>	記号	意味		重大		警告		情報
記号	意味								
	重大								
	警告								
	情報								
初回警告	設定した時間経過後に警告メッセージを通知します。								
警告間隔	初回警告後、設定された時間間隔で警告メッセージを表示します。								
スケジュールシャット ダウン開始警告	スケジュール運転開始前にスケジュール運転開始に関する警告メッセージを表示します。								

イベントメッセージ通知方法について

通知する方法には、ユーザのコンピュータ画面に自動的に表示されるポップアップメッセージを送る方法と、電子メールで送る方法の2種類あります。

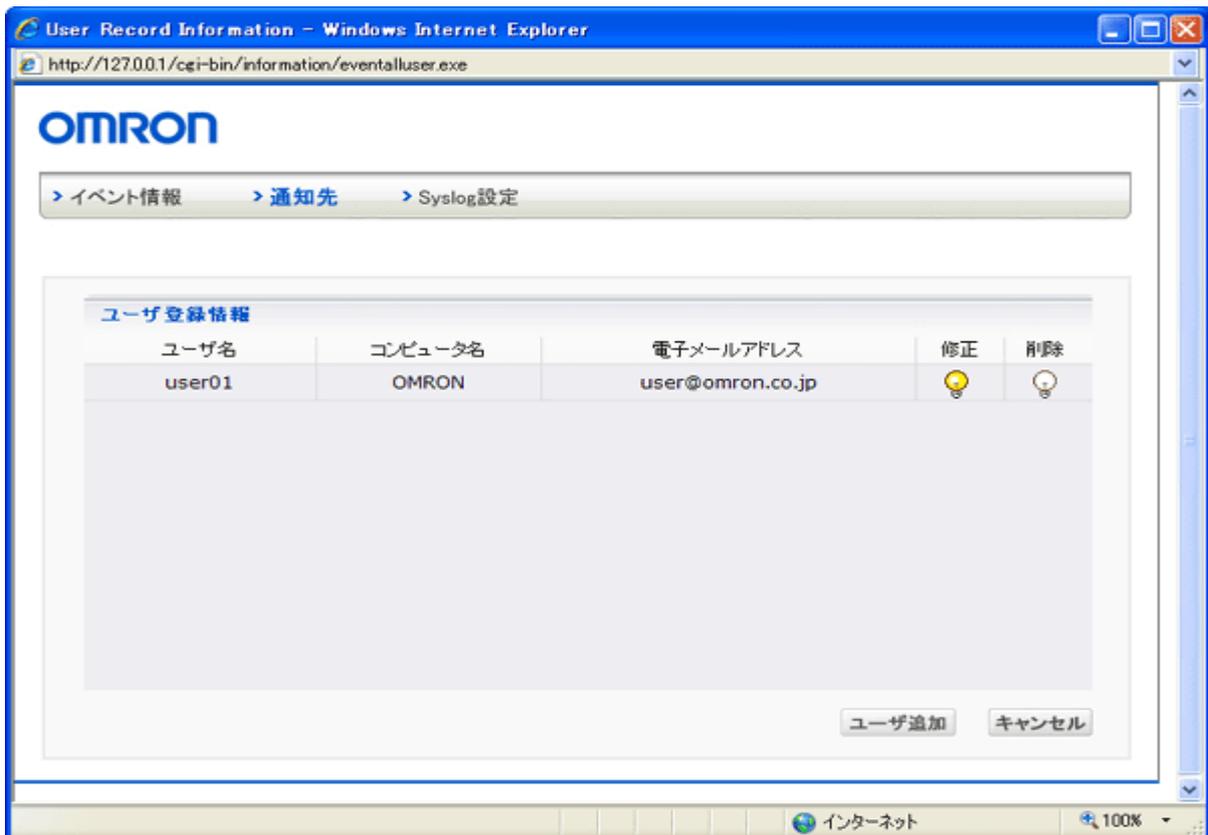
ポップアップメッセージで通知する場合は、[ユーザへの通知]の[ポップアップメッセージ]欄に、電子メールで通知する場合は[ユーザへの通知]の[電子メール]欄に、それぞれ表示されているユーザ名をクリックしてください。

通知先の登録

メッセージを通知したいユーザを登録する場合は、[通知先]をクリックしてください。下記の[ユーザ登録情報]画面が表示されます。

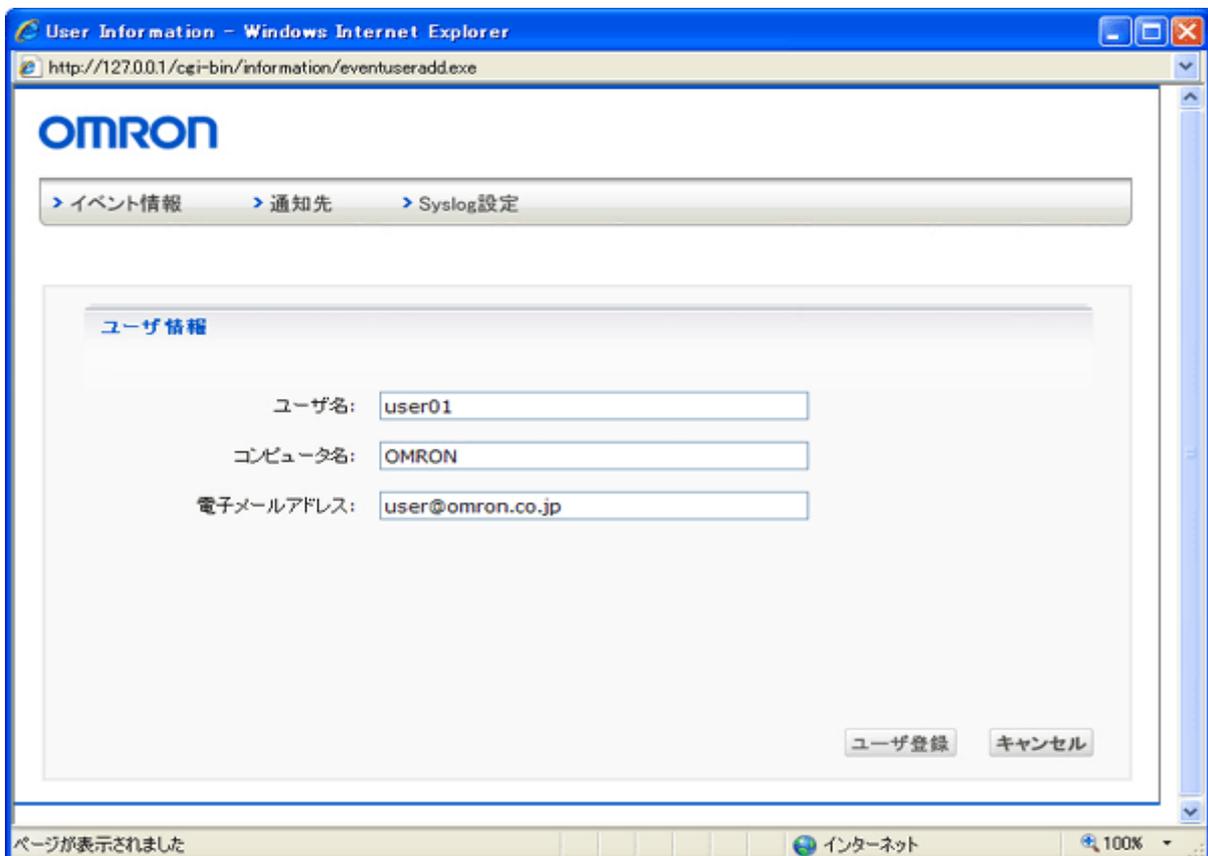
この画面には、登録済みの通知先ユーザが一覧表示されます

[ユーザ登録情報]画面



ユーザの追加方法は、次のとおりです。

- ① [ユーザ追加]ボタンをクリックします。下記の[ユーザ登録]画面が表示されます。



- ② ユーザ名、ユーザのコンピュータ名、メールアドレスを必要に応じて入力します。
- ③ [ユーザ登録]ボタンをクリックします。
[キャンセル]ボタンをクリックした場合は、新規登録したユーザの情報は登録されません。

登録済みユーザを修正する方法は、次のとおりです。

- ① [ユーザ登録情報]画面で修正したいユーザの  ボタンをクリックします。
- ② [ユーザ登録]画面が表示されますので、修正したい項目を選択して修正を行ってください。

登録済みユーザを削除する方法は、次のとおりです。

- ① [ユーザ登録情報]画面で削除したいユーザの  ボタンをクリックします。

Syslog の設定

ネットワーク上に設置されている Syslog サーバにログ情報を送信して記録しておくことができます。デフォルトでは[無効]になっています。

リストから[有効]を選択し、[設定]をクリックすると Syslog の設定を行うことができます。



Syslog 機能を設定する方法は次のとおりです。

- ① [Syslog 設定]で、Syslog サーバの IP アドレスを入力し、Syslog の Facility(機能)を選択します。Syslog サーバは 2 台まで登録できます。
- ② [プライオリティ設定]で、UPS の 3 種類のログ(警告、注意、情報)の Priority(優先度)を選択します。
- ③ [言語設定]で、サーバに送信されるログの言語を選択します。英語または日本語が選択できます。
- ④ [設定]をクリックします。

【参考】

- Syslog の Facility および Priority の詳細については UNIX の Syslog に関する資料を参照してください。
- Syslog の設定に当たっては、ネットワーク管理者にご相談ください



4. 1. 1. 4スケジュール

日時を指定し、無停電電源装置(UPS)の停止／起動や無停電電源装置(UPS)の自己診断などを行うことができます。

日時の指定以外に、毎週、毎月という指定もできます。

これらを指定し無停電電源装置(UPS)を使用することをスケジュール運転といいます。

スケジュール運転を一覧表示し、個別に設定変更、削除を行うことができます。

【注意】

スケジュール運転時に電源異常などが発生した場合は、現在のスケジュール運転はキャンセルされ、次のスケジュール運転の設定に従って動作します。

スケジュール運転の一覧表示

スケジュール運転の状況を一覧表示できます。

[スケジュール]をクリックしてください。

[スケジュール運転]画面

Screenshot of the OMRON Schedule Action web interface. The browser window title is "Schedule Action - Windows Internet Explorer" and the address bar shows "http://127.0.0.1/cgi-bin/information/schedule.exe". The page features the OMRON logo and a breadcrumb trail: "> スケジュール運転 > スケジュール運転 追加/削除".

スケジュール項目	運転	停止/実施日	日時	起動日	日時	修正	削除
指定日	停止日/起動日	2009-02-06	19:00:00	2009-02-07	08:30:00	💡	💡

Buttons at the bottom:

Footer: ページが表示されました | インターネット | 100%

[スケジュール運転]画面の各項目の意味は、次のとおりです。

項目	内容
スケジュール項目	設定されているスケジュール運転の運転間隔が表示されます。「指定日」、「毎週」、「毎月」が表示されます。
運転	スケジュール運転の運転内容が表示されます。「停止日/起動日」(無停電電源装置(UPS)の停止/起動)、「バックアップ時間テスト」、「自己診断テスト」のいずれかが表示されます。
停止/実施日	スケジュール運転の停止日付が表示されます。
日時	停止時刻が表示されます。
起動日	スケジュール運転の起動日付が表示されます。
日時	起動時刻が表示されます。
修正	 ボタンをクリックすると、スケジュール運転の設定を変更できます。
削除	 ボタンをクリックすると、設定されているスケジュール運転を削除できます。
スケジュール追加	スケジュール運転を新規追加できます。
キャンセル	設定したスケジュール運転を登録しません。[スケジュール運転]画面を終了します。

スケジュール運転の追加／修正

スケジュール運転を追加したり、修正したりできます。

[スケジュール運転 追加／削除]をクリックしてください。

[スケジュール運転 追加／削除]画面

[スケジュール運転 追加／削除]画面の各項目の意味は、次のとおりです。

項目	意味
スケジュール運転項目	運転項目欄をクリックすると、プルダウンメニューに「起動日／終了日」、「バックアップ時間テスト」、「自己診断テスト」が表示されるのでクリックして選択します。また、指定日欄をクリックすると、プルダウンメニューに「指定日」、「毎週」、「毎月」が表示されるのでクリックして選択します。
設定	設定した内容でスケジュール運転を登録します。
キャンセル	設定したスケジュール運転を登録しません。[スケジュール運転 追加／削除]画面を終了します。

スケジュール運転の設定方法

ここでは、スケジュール運転の新規追加、修正、削除の設定手順について説明します。

[新規にスケジュール運転を登録する場合の設定手順]

- ① [スケジュール運転]画面の[スケジュール追加]ボタンをクリックします。
- ② [スケジュール運転 追加/削除]画面が表示されます。
- ③ スケジュール運転項目を選択します。

スケジュール運転項目	説明
起動日/終了日	システムを停止させたり起動させたりします。
バックアップ時間テスト	推定バックアップ時間を補正するためのテストです。
自己診断テスト	自己診断テストを実施します。
指定日	指定日にスケジュール運転を実施します。
毎週	毎週 設定されている曜日にスケジュール運転を実施します。
毎月	毎月 設定されている日にスケジュール運転を実施します。

- ④ 停止日または自己診断テストまたはバックアップ時間テストの日付と実施時間を指定します。

[日付]ボタンをクリックするとカレンダーが表示されるので指定する日をクリックしてから[設定]ボタンをクリックしてください。



- ⑤ スケジュール運転に従ってシステムを起動させるまたは起動させないを選択します。選択する場合は、[スケジュール運転(起動日)を有効にする]のチェックボックスをクリックします。

[スケジュール運転に従ってシステムを起動する場合]

起動日と実施時間を指定して、手順 ⑥に進んでください。

[スケジュール運転に従ってシステムを起動しない場合]

起動日と実施時間は指定できません。手順 ⑥に進んでください。

- ⑥ [設定]ボタンをクリックします。
- ⑦ [スケジュール運転]画面に戻りますので、設定したスケジュール運転内容を確認のうえ必ず[設定]ボタンをクリックします。
[設定]ボタンをクリックせずに、[スケジュール運転]画面を終了すると、設定したスケジュール運転は、登録されません

[設定済みスケジュール運転の修正手順]

[スケジュール運転]画面の修正したいスケジュールの  ボタンをクリックします

[設定済みスケジュール運転の削除手順]

[スケジュール運転]画面の削除したいスケジュールの  ボタンをクリックします

注意事項

[スケジュール運転追加／削除]画面において、[スケジュール運転(起動日)を有効にする]を選択できない機種では、以下の設定が必要になります。

- [指定日時に起動させる場合]
[システム]メニュー-->[環境設定]
-->[UPSの起動/再起動]を順に選択し、[UPSの自動再起動]を「する」に設定し、システムが自動再起動するように設定します。
- [指定日時に起動させない場合]
[システム]メニュー-->[環境設定]
-->[UPSの起動/再起動]を順に選択し、[UPSの自動再起動]を「しない」に設定し、システムが自動再起動しないように設定します。

4. 1. 1. 5ログオフ

PowerAct Pro モニタの表示を終了します。

4. 1. 2ログ

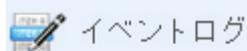
4. 1. 2. 1イベントログ

無停電電源装置(UPS)で発生する動作状況(入力電源異常、スケジュールシャットダウン、環境設定、バッテリーテストなど)を記録することができます。

記録したデータは、[Microsoft Excel]で読めます。

[イベントログ]画面

- [ログ](Log)→[イベントログ]を選択するか、ツールバーのボタン



イベントログ

をクリックすると、[イベントログ]画面が表示されます。

- [保存]をクリックすると、イベントログのデータをファイルとして保存できます。
- [削除]をクリックすると、イベントログのデータを消去できます。
- [印刷]をクリックすると、印刷されます。
- [ログオプション]をクリックすると、環境設定の[ログオプション]画面に移ります。

4. 1. 2. 2データログ

データログでは、時間・入力電圧・出力電圧・接続容量・入力周波数・無停電電源装置内部温度などのさまざまなデータを記録することができます。

記録したデータは、[Microsoft Excel]で読めます。

[データログ]画面

The screenshot shows the DataTime web interface in Internet Explorer. The URL is `http://127.0.0.1/cgi-bin/information/datalog.exe?upsport=0`. The page features the Omron logo and a date range selector set to "1週" (1 week) from 2009-01-30 to 2009-02-06. Below this is a summary table and a detailed log table.

項目	入力電圧 (V)	出力電圧 (V)	入力周波数 (Hz)	出力周波数 (Hz)	負荷容量 (%)	内部温度 (°C)	バックアップ時間 (Min)	バッテリー電圧 (V)	バッテリー容量 (%)
最大値	102.3	114.2	50.1	50.1	41	---	-	13.3	100
最小値	97.1	97.1	50.0	0.0	14	---	-	11.0	0
平均値	99.3	99.3	50.1	50.0	15	---	-	13.3	98

日時	入力電圧 (V)	出力電圧 (V)	入力周波数 (Hz)	出力周波数 (Hz)	負荷容量 (%)	内部温度 (°C)	バックアップ時間 (Min)	バッテリー電圧 (V)	バッテリー容量 (%)
2009-02-06 17:32:22	98.9	98.9	50.1	50.1	15	---	-	13.2	100
2009-02-06 17:31:22	98.9	98.9	50.1	50.1	15	---	-	13.3	100
2009-02-06 17:30:22	98.9	98.9	50.1	50.1	15	---	-	13.3	100
2009-02-06 17:29:22	98.9	98.9	50.0	50.0	15	---	-	13.2	100
2009-02-06 17:28:22	98.9	98.0	50.0	50.0	19	---	-	13.2	100

Navigation buttons: 保存, 削除, 印刷, ログオプション, 設定. Page navigation: 次のページ, 最後のページ.

データログで記録できる情報と各情報の意味は、次のとおりです。

入力電圧	商用コンセントの電圧レベルです。
出力電圧	無停電電源装置からの出力されている電圧レベルです。
入力周波数	商用コンセントの周波数レベルです。
出力周波数	無停電電源装置(UPS)からの出力周波数レベルです。
負荷容量	無停電電源装置に接続されている機器の容量です。
内部温度	無停電電源装置内部の温度です。
バックアップ時間	推定バックアップ時間を表示します。
バッテリー電圧	バッテリーの充電電圧レベルです。
バッテリー容量	バッテリーの充電レベルです。



- [ログ]->[データログ]を選択するか、ツールバーのボタンをクリックすると、[データログ]画面が表示されます。
- [保存]をクリックすると、データログのデータをファイルとして保存できます。
- [削除]をクリックすると、データログのデータを削除できます。
- [印刷]をクリックすると、印刷されます。
- [ログオプション]をクリックすると、環境設定の[ログオプション]画面に移ります。

4. 1. 2. 3CO2 ログ

CO2 ログでは、あらかじめ設定しておいた係数を元に、無停電電源装置(UPS)を使用する事で発生した CO2 量を記録することができます。

記録したデータは、[Microsoft Excel]で読めます

[CO2 ログ]画面

CO2

CO2排出量(kg CO2) = 電気使用量 (kWh) X 0.000555 (tCO2/kWh) 設定

日時 過去1日

From 2009年 02月 05日 To 2009年 02月 06日 設定

開始時間 2009-02-05 終了時刻 2009-02-06

総CO2 排出量 0.244128 一定期間のCO2排出量 0.244128

日時	UPS電源	CO2排出量	排出係数
2009- 2- 6 17:08:22	52.87	0.029344	0.000555
2009- 2- 6 16:08:22	52.87	0.029340	0.000555
2009- 2- 6 15:08:22	54.39	0.030189	0.000555
2009- 2- 6 13:44:14	55.43	0.030766	0.000555
2009- 2- 6 12:44:14	63.45	0.035217	0.000555
2009- 2- 6 11:44:14	54.59	0.030298	0.000555
2009- 2- 5 19:23:56	52.64	0.029212	0.000555
2009- 2- 5 18:23:56	53.62	0.029762	0.000555

保存 削除 設定

CO2 ログで設定、記録できる情報と各情報の意味は、次のとおりです。

CO2 排出量	CO2 排出量の計算式です。係数を入力して[設定]ボタンをクリックすることで係数を変更できます。
日時	ログに表示する期間を設定します。「日時」ラジオボタンにチェックをすると、右のプルダウンメニューから1日、1週間、1ヶ月と設定できます。「From～」ラジオボタンにチェックすると、期間を具体的に指定することができます。設定が完了したら[設定]ボタンを押してください。

開始時間	ログの開始期間です。
終了時刻	最新ログの取得時刻です。
総 CO2 排出量	無停電電源装置(UPS)の使用開始から現在までの CO2 排出量です。
一定期間の CO2 排出量	一定期間の CO2 排出量です。
日時	そのログの取得時刻です。
UPS 電源	そのログ時点での無停電電源装置(UPS)の電気使用量です。
CO2 排出量	そのログ時点での無停電電源装置(UPS)の CO2 排出量です。
排出係数	そのログ時点での計算式における排出係数です。

(参考:「記録したデータを Excel で読込んだ画面」)

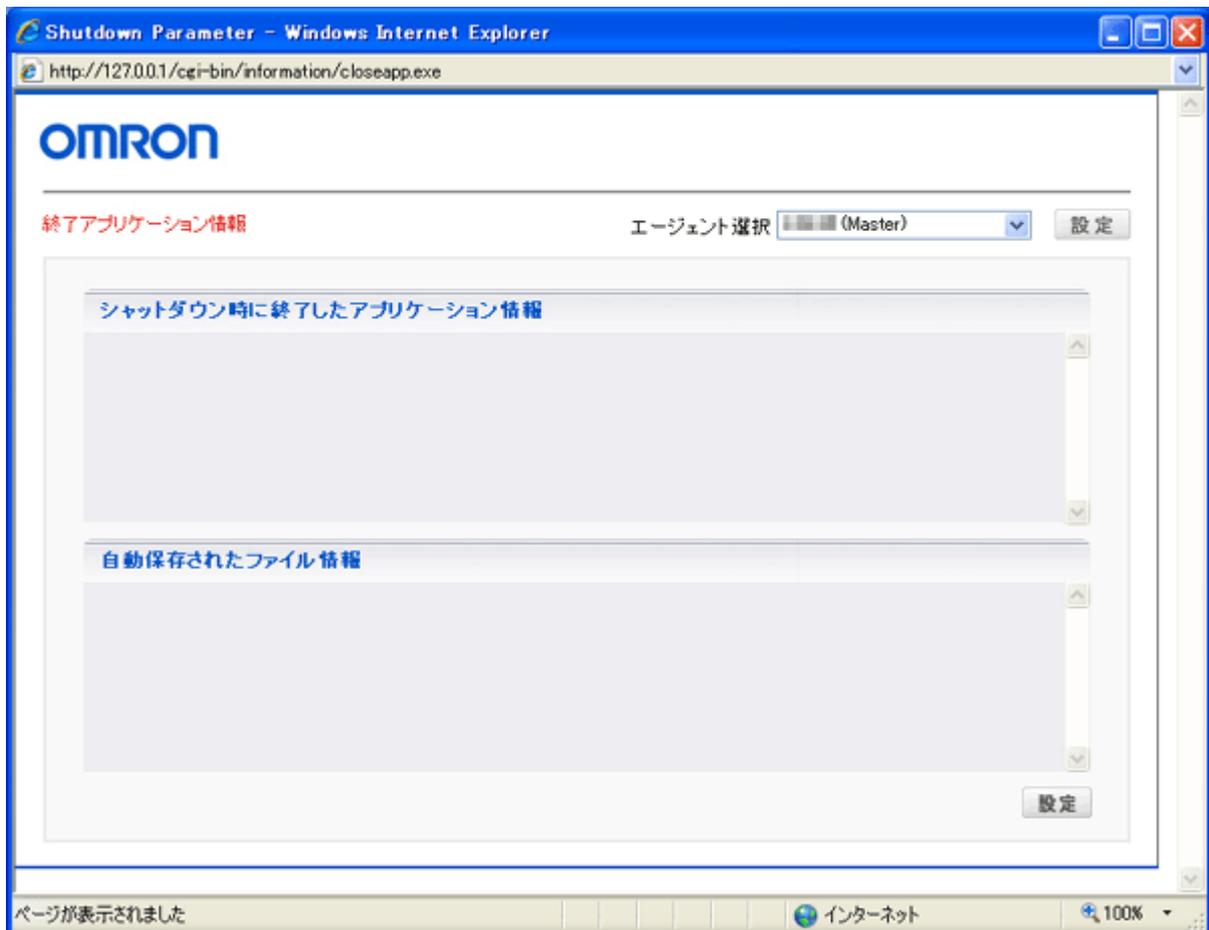
The screenshot shows a Microsoft Excel window titled 'Microsoft Excel - datalog.csv'. The spreadsheet contains the following data:

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	2003年10月23日	20:46:33	99.5	99.5	50	50	7	38.5	-
2	2003年10月23日	20:45:33	99.5	99.5	50	50	7	38.5	-
3	2003年10月23日	20:44:33	98.5	98.5	50	50	7	38.5	-
4	2003年10月23日	20:43:33	98.5	98.5	50	50	7	38.5	-
5	2003年10月23日	20:42:33	99.5	99.5	50	50	8	38.5	-
6	2003年10月23日	20:41:31	98.5	98.5	50	50	7	38.5	-
7	2003年10月23日	20:40:31	99.5	99.5	50	50	7	38.5	-
8	2003年10月23日	20:39:31	98.5	98.5	50	50	7	38.5	-
9	2003年10月23日	20:38:31	98.5	98.5	50	50	7	38.5	-
10	2003年10月23日	20:37:31	99.5	99.5	50	50	8	38.5	-
11	2003年10月23日	20:36:31	99.5	99.5	50	50	7	38.5	-

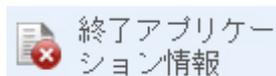
4. 1. 2. 4 終了アプリケーション

Windows 版の PowerAct Pro は、システムをシャットダウンする前に、開いているファイルを自動的に保存してから、アプリケーションを終了します。終了したアプリケーションと保存したファイルに関する情報を表示します。

[終了アプリケーション情報]画面



[ログ]->[終了アプリケーション情報]を選択するか、ツールバー上のボタン



をクリックすると、[終了アプリケーション情報]画面が表示されます。

4. 1. 3 UPS 設定

4. 1. 3. 1 ブザー

バックアップ運転中に無停電電源装置(UPS)のブザーをならすかならさないか設定できます。

バックアップ中にブザーをならしたくない場合は、「ならさない」にしてください。

バックアップ中にブザーをならしたい場合は、「ならす」にしてください。

[設定方法]

PowerAct Pro モニタを起動します。

メニューから[UPS 設定]→[ブザー]を選択し、ブザーを「ならす」または「ならさない」を選択してください。

注意事項

無停電電源装置(UPS)の機種によっては、本体背面の「設定スイッチ」でブザーの設定を行ってください。

4. 1. 3. 2 バッテリー自動テスト

自動的にバッテリーの劣化状態を診断するかしないかを選択できます。

「する」を選択すると、無停電電源装置は、4 週間間隔で自動的にバッテリー診断を行います。

[設定方法]

- ① PowerAct Pro モニタを起動します。
- ② メニューから[UPS 設定]→[バッテリー自動テスト]を選択し、バッテリー自動テストを「する」または「しない」を選択してください。

注意事項

バッテリー自動テスト結果が「**異常あり**」になった場合、無停電電源装置(UPS)に内部回路故障、接続容量オーバー、出力ショート(短絡)、内部温度異常、バッテリー電圧が低い、バッテリーが劣化しているなどの可能性があります。

バッテリー自動テスト実行中は、接続負荷が変動しないように注意してください。ご使用される無停電電源装置(UPS)によっては、正しくテストを実行できない場合があります。

[バッテリー劣化の場合の処理]

バッテリーが劣化している場合は、必ずバッテリー交換を行ってください。

「バッテリー劣化」のまま使用すると、入力電源異常が無停電電源装置(UPS)に発生しても正常にバックアップ運転をを行うことができません。

[無停電電源装置(UPS)が異常の場合の処理]

無停電電源装置(UPS)が異常の場合は、無停電電源装置(UPS)およびシステムを停止ください。

4. 1. 3. 3 出力電圧／入力感度

無停電電源装置(UPS)の出力電圧を 100V にするか 115V にするか選択できます。

電源仕様が AC115V の機器を無停電電源装置(UPS)に接続する場合には、出力電圧を AC115V に切替えてご使用ください。

なお、AC115V に切替えている場合、商用運転中及びバックアップ運転中とも AC115V 出力になります。

また、無停電電源装置(UPS)が停電を検出する電圧の感度を設定することができます。詳細は、次の表を参照してください。

〔設定方法〕

PowerAct Pro モニタを起動します。

メニューから[UPS 設定]→[出力電圧/入力感度]を選択し、設定した出力電圧と入力感度を選択してください。

各設定項目の内容については、[出力電圧/入力感度 設定項目および説明]の表を参照してください。

設定項目	説明
100V／高感度	出力電圧は AC100V です。停電検出電圧感度は、高感度です。
100V／標準感度	出力電圧は AC100V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
100V／低感度	出力電圧は AC100V です。停電検出電圧感度は、標準感度より、低い値の設定です。 頻繁にバックアップモードに入る時に、選択してください。
110V／標準感度	出力電圧は AC110V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
115V／標準感度	出力電圧は AC115V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
115V／低感度	出力電圧は AC115V です。停電検出電圧感度は、標準感度より、低い値の設定です。 頻繁にバックアップモードに入る時に、選択してください。
120V／標準感度	出力電圧は AC120V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
200V／標準感度	出力電圧は AC200V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
220V／標準感度	出力電圧は AC220V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
230V／標準感度	出力電圧は AC230V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
240V／標準感度	出力電圧は AC240V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。

注意事項

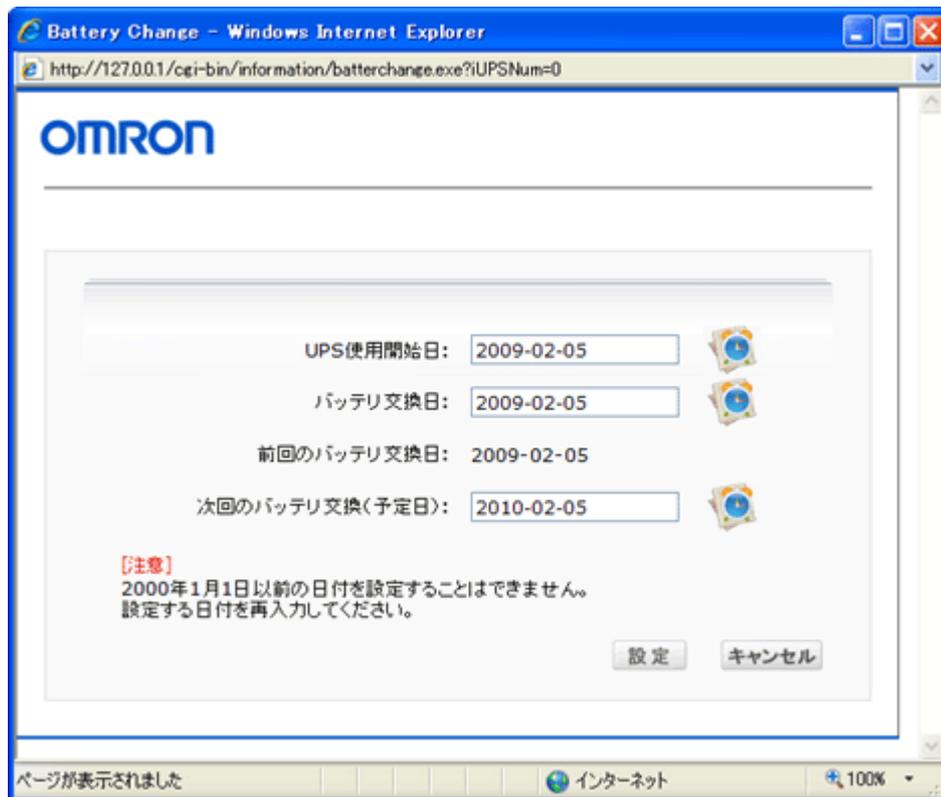
無停電電源装置(UPS)の機種によっては本機能を使用できません。

4. 1. 3. 4 バッテリー交換時の設定

バッテリー使用開始日(交換日)を設定することにより、定期メンテナンス(バッテリー交換)を実施する時期を前もって予定することができます。

[設定方法]

- ① メニューから[UPS 設定]→[前回のバッテリー使用開始日(交換日)]を選択し、[バッテリー使用開始日(交換日)]画面で、[日付]ボタンをクリックします。



- ② 表示されるカレンダーで日付をクリックし、[設定]ボタンをクリックします。



- ③ [設定]ボタンをクリックして交換日を設定します。[キャンセル]をクリックすると、指定した日付が設定されません。

4. 1. 4 手動操作

4. 1. 4. 1 即時シャットダウン

即時シャットダウンを実行すると、OS のシャットダウンがすぐに開始されます。ただし、シャットダウンの遅延時間を設定することもできます。OS シャットダウン完了後、無停電電源装置(UPS)を自動停止します。

無停電電源装置(UPS)再起動したい場合は、無停電電源装置(UPS)の電源スイッチを入れてください。

4. 1. 4. 2 ブザーテスト

ブザーテストを実行すると無停電電源装置(UPS)のブザーが1秒間なります

4. 1. 4. 3 自己診断テスト

無停電電源装置装置(UPS)の各機能が正常に動作しているかどうかを診断する機能です。自己診断テストは、スケジュール運転で設定し、自動的に行う方法と、手動で行う方法があります。無停電電源装置(UPS)の自己診断は、定期的にスケジュール運転で実施されることをお勧めします。

[設定方法]

[手動で自己診断を実施する場合]

- ① PowerAct Pro モニタを起動します。
- ② メニューから[手動操作]→[自己診断テスト]を選択し、診断を実行します。

[スケジュール運転で自己診断テストを実施する場合]

- ① PowerAct Pro モニタを起動します。
メニューから[システム]→[スケジュール]を選択し、[スケジュール運転]画面を起動してください。
- ② [スケジュール運転]画面の[スケジュール追加]ボタンをクリックします。
- ③ [スケジュール運転 追加/修正]画面が表示されます。
- ④ スケジュール運転項目から、[自己診断実施日]と実施する日(指定日/毎週/毎月)を選択します。
- ⑤ 自己診断実施日と実施時間を指定します。
- ⑥ [設定]ボタンをクリックします。
- ⑦ [スケジュール運転]画面に戻りますので、設定したスケジュール運転内容を確認のうえ必ず[設定]ボタンをクリックしてください。
[設定]ボタンをクリックせずに、[スケジュール運転]画面を終了すると、設定したスケジュール運転は、登録されません。

注意事項

自己診断結果が「**異常あり**」になった場合、無停電電源装置(UPS)に内部回路故障、接続容量オーバー、出力ショート(短絡)、内部温度異常、バッテリー電圧が低い、バッテリーが劣化しているなどの可能性があります。

[バッテリー劣化の場合の処理]

バッテリーが劣化している場合は、必ずバッテリー交換を行ってください。

「バッテリー劣化」のまま使用すると、入力電源異常が無停電電源装置(UPS)に発生しても正常にバックアップ運転を行うことができません。

[無停電電源装置(UPS)が異常の場合の処理]

無停電電源装置(UPS)が異常の場合は、無停電電源装置(UPS)およびシステムを停止ください。

4. 1. 4. 4 バックアップ時間テスト

推定バックアップ時間を補正するためのテストです。本テストを実施する場合は、実負荷を接続した状態でテストしてください。

[設定方法]

- ① PowerAct Pro モニタを起動します。
 - ② メニューから[手動操作]→[バックアップ時間テスト]を選択し、バックアップ時間テストの「実行」を選択してください。
- なお、「バックアップ時間テスト」をキャンセルする場合は、「キャンセル」(Stop)を選択してください

注意事項

無停電電源装置(UPS)の機種によっては本機能を使用できません。

4. 1. 4. 5 出力コンセント B / 出力コンセント C

制御機能付きの出力コンセント B または C の出力を開始 / 停止できます。

[設定方法]

- ① PowerAct Pro モニタを起動します。
- ② メニューから[手動操作]→[出力コンセント B(制御あり)](または[出力コンセント C(制御あり)])を選択し、「出力開始」または「出力停止」を選択してください。

4. 1. 4. 6 コマンド送信

メンテナンスなどの場合に使用します。通常は使用しないでください。

4. 1. 5ヘルプ

4. 1. 5. 1オンラインヘルプ

オンラインヘルプでは PowerAct Pro の各機能や設定方法などのさまざまな情報を記載しています。

本ソフトウェアをご使用になる前に、必ずオンラインヘルプを起動して各機能の説明や設定内容などを参照してください。

4. 1. 5. 2バージョン情報

バージョン情報には、本ソフトウェアのバージョン情報や著作権情報などが記載されています。

4. 1. 5. 3システム情報

システム情報には、マスターエージェントをインストールしたコンピュータや、接続している無停電電源装置(UPS)の情報などが記載されています。

4. 1. 5. 4管理者情報

管理者情報には、システム管理者の連絡先などの情報を登録することができます。

4. 1. 5. 5製品ページ

インターネットに接続可能なネットワークで選択すると、オムロンのホームページを表示できます。

4. 1. 5. 6ユーザ登録ページ

インターネットに接続可能なネットワークで選択すると、Power Act Pro のユーザー登録ページを表示できます。

4. 2モニタのツールバー

ツールバーには、アイコンボタンが表示されています。

これらのアイコンボタンをクリックすると各機能を起動することができます。

各機能説明は、[PowerAct Pro モニタのメニュー]を参照してください。

アイコンボタン	説明
 環境設定	[環境設定]を表示します。
 スケジュール	[スケジュール]を表示します。
 イベント情報	[イベント情報]を表示します。
 イベントログ	[イベントログ]を表示します。
 データログ	[データログ]を表示します。
 終了アプリケーション情報	[終了アプリケーション情報]を表示します。
 Net Search	[エージェント自動検索]画面を表示します。[エージェント自動検索]画面が、すでに表示されている場合は、その内容を更新します。
 ヘルプ	オンラインヘルプを表示します。

4. 3 イベント情報

4. 3. 1 イベント情報の内容

ログ表示やメールで通知される主なイベントは次のとおりです。対処が必要なイベントについては、対処方法が記載されています。

- 重大／警告イベント

シャットダウンの開始やシステムの異常など、何らかの対処が必要であることを通知するイベントです。

マーク	イベント情報	内容
	バッテリーロー	無停電電源装置(UPS)のバッテリー電圧が低下してバッテリーローレベルになっています。このままでは電源の供給ができなくなるのでシャットダウンを開始します。
	シャットダウン開始 (入力電源異常)	入力電源に異常が発生したので、シャットダウンを開始します。
	スケジュールシャットダウン 開始(指定日)	スケジュール運転(指定日)の設定日になったのでシャットダウンを開始します。
	スケジュールシャットダウン 開始(毎月)	スケジュール運転(毎月)の設定日になったのでシャットダウンを開始します。
	スケジュールシャットダウン 開始(毎週)	スケジュール運転(毎週)の設定日になったのでシャットダウンを開始します。
	即時シャットダウン開始	[手動操作]メニューの[即時シャットダウン]が選択されたので、シャットダウンを開始します。
	外部コマンド実行を開始 します	シャットダウン時に実行するよう設定された外部コマンドを実行します。
	アプリケーション終了を 開始します	実行されているアプリケーションの終了動作を開始します。
	OS シャットダウンを開始 します	OS のシャットダウンを開始します。
	ハードウェア異常	ハードウェアの異常が発生しています。
	自己診断結果:異常あり (ハードウェア異常)	無停電電源装置(UPS)と接続機器を停止してください。
	バッテリー自動テスト結果: 異常あり (ハードウェア異常)	次に、接続されているすべての機器を無停電電源装置(UPS)からはずし、無停電電源装置(UPS)の「運転」スイッチを押して、運転を開始してください。
	出力電圧異常	

	DC バス電圧異常	ハードウェアの異常が再度発生した場合は、内部回路の故障の可能性があります。
	オーバーロード異常	
	出力短絡異常	
	バッテリー過充電異常	
	バッテリー充電不足異常	
	温度異常	
	ファン異常	
	トランス異常	
	バッテリー劣化	バッテリーが劣化しました。 バッテリーを交換してください。 バッテリー交換を行わないと正常なバックアップ動作を行うことができません。
	自己診断結果:異常あり (バッテリー劣化)	
	バッテリー自動テスト結果: 異常あり (バッテリー劣化)	
	入力電源異常	入力電源に異常が発生しました。 バックアップ運転を開始します。
	スケジュールシャットダウン 開始警告(指定日)	スケジュール設定によるシャットダウン開始(指定日、毎月、毎週)時間になりました。 シャットダウンを開始する前に、開始警告を通知します。
	スケジュールシャットダウン 開始警告(毎月)	
	スケジュールシャットダウン 開始警告(毎週)	
	シャットダウン一時停止	待機時間中にシャットダウンの一時停止操作が行われたので、シャットダウンを一時停止します。
	接続容量オーバー	接続機器が多すぎて UPS の定格出力容量を超えています。このままでは、入力電源異常時にバックアップ動作を行うことができません。 UPS の異常表示が消えるまで、接続機器を減らしてください。
	出力電圧調整	入力電圧が高すぎるか、低すぎるため、出力電圧を調整しました
	バッテリー未接続	バッテリーが正しく接続されていません。バッテリーのコネクタを確認してください。
	バイパス運転中	バイパス運転を開始します。
	通信エラー	無停電電源装置(UPS)と通信できません

- 情報イベント

運転の再開や診断テストの正常終了、各種設定値の変更など、PowerAct Pro の動作状態を確認するための通知イベントです。

マーク	イベント情報	内容
	入力電源回復	商用運転を開始します。
	通信確立	無停電電源装置(UPS)と通信を開始しました。
	エージェント起動	エージェントを起動します。
	エージェント停止	エージェントを停止します。
	自己診断結果:異常なし	テストの結果に異常がなく、正常に動作しています。
	バッテリー自動テスト結果: 異常なし	
	「UPS 出力コンセント選択」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「待機時間」を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「シャットダウン開始遅延」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「シャットダウンに必要な時間」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「コンセント出力停止までの 時間」を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「UPS 起動時の出力コンセント 遅延時間」を変更しました	[UPS 起動/再起動]画面で設定が変更されました。
	「Windows 終了モード」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「UPS の自動再起動」 を変更しました	[UPS 起動/再起動]画面で設定が変更されました。
	「初回警告」を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「警告間隔」を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転開始警告」 を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「イベントログ最大保存数」 を変更しました	[ログオプション]画面で設定が変更されました。
	「データログ最大保存数」 を変更しました	[ログオプション]画面で設定が変更されました。
	「記録間隔(商用運転中)」 を変更しました	[ログオプション]画面で設定が変更されました。

	「記録間隔(バックアップ 運転中)」を変更しました	[ログオプション]画面で設定が変更されました。
	「通信ポート」を追加しました	[通信設定]画面で設定が変更されました。
	「通信ポート」を削除しました	[通信設定]画面で設定が変更されました。
	「ネットワークポートアドレス」 に関する設定を変更しました	[通信設定]画面で設定が変更されました。
	「SMTP メール」を変更しました	[通信設定]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(指定日)」 を追加しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎月)」 を追加しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎週)」 を追加しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(指定日)」 を変更しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎月)」 を変更しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎週)」 を変更しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(指定日)」 を削除しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎月)」 を削除しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎週)」 を削除しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「外部コマンド実行時間」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されま した。
	「外部コマンド」 を追加しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されま した。
	「外部コマンド」 を削除しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されま した。
	「ユーザへの通知」 を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「バッテリー使用開始日(交換日)」 を更新しました	[バッテリー使用開始日(交換日)]画面で設定が変更さ れました。
	「シャットダウンパラメータ」 をデフォルト値にしました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されま した。

	「UPS 起動／再起動」をデフォルト値にしました	[UPS 起動／再起動]画面で設定が変更されました。
	「ログ」をデフォルト値にしました	[ログオプション]画面で設定が変更されました。
	「通信設定」をデフォルト値にしました	[通信設定]画面で設定が変更されました。
	「イベント情報」を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「通知先」を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「ブザーテスト」を実行しました	[手動操作]メニューの[ブザーテスト]が実行されました。
	「自己診断テスト」を実行しました	[手動操作]メニューの[自己診断テスト]が実行されました。
	「ブザー」設定を変更しました	[UPS 設定]メニューの[ブザー]の設定が変更されました。
	「バッテリー自動テスト」設定を変更しました	[UPS 設定]メニューの[バッテリー自動テスト]の設定が変更されました。
	「バックアップ時間テスト」を開始しました	[手動操作]メニューの[バックアップ時間テスト]が選択され、テストが開始されました。
	「バックアップ時間テスト」を終了しました	[手動操作]メニューの[バックアップ時間テスト]で開始されたテストが終了しました。
	「バックアップ時間テスト」をキャンセルしました	[手動操作]メニューの[バックアップ時間テスト]で開始されたテストが中断されました。
	「出力コンセント B(制御あり)」の出力を開始しました	[手動操作]メニューの[出力コンセント B(制御あり)]によって出力コンセント B の出力が開始されました。
	[出力コンセント B(制御あり)]の出力を停止しました	[手動操作]メニューの[出力コンセント B(制御あり)]によって出力コンセント B の出力が停止されました。
	「出力コンセント C(制御あり)」の出力を開始しました	[手動操作]メニューの[出力コンセント C(制御あり)]によって出力コンセント C の出力が開始されました。
	[出力コンセント C(制御あり)]の出力を停止しました	[手動操作]メニューの[出力コンセント C(制御あり)]によって出力コンセント C の出力が停止されました。
	「出力電圧／入力感度」を変更しました	[UPS 設定]メニューの[出力電圧／入力感度]の設定が変更されました。
	「バッテリーユニット」を増設しました	バッテリーユニットが増設可能な無停電電源装置(UPS)(BN150XR など)でバッテリーユニットが増設されました。
	シャットダウンを再開します	エージェントのメニューで中断されたシャットダウン動作が再開されました。

	「UPS 自動停止」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面の設定が変更されました。
	「ページ更新設定」 を変更しました	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	「冗長電源設定」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面の設定が変更されました。
	「Syslog 機能」を有効に しました	[Syslog 設定]画面の設定が変更されました。
	「Syslog 機能」を無効に しました	[Syslog 設定]画面の設定が変更されました。
	「Syslog 設定」を変更しました	[Syslog 設定]画面の設定が変更されました。
	「Priority 設定」を変更しました	[Syslog 設定]画面の設定が変更されました。
	「Syslog 言語設定」 を変更しました	[Syslog 設定]画面の設定が変更されました。
	「送信設定」を変更しました	[Wake On LAN]画面の設定が変更されました。
	「送信タイミング」 を変更しました	[Wake On LAN]画面の設定が変更されました。
	「Wake On LAN 送信先」 を追加しました	[Wake On LAN]画面の設定が変更されました。
	「Wake On LAN 送信先」 を修正しました	[スレーブエージェント登録]画面の設定が変更されました。
	「Wake On LAN 送信先」 を削除しました	[スレーブエージェント登録]画面の設定が変更されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント A を 出力停止します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント A の出力が停止されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント B を 出力停止します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント B の出力が停止されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント C を 出力停止します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント C の出力が停止されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント A を 出力停止/出力開始します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント A の出力を停止後、再度開始されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント B を 出力停止/出力開始します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント B の出力を停止後、再度開始されました。

	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント C を出力停止/出力開始します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント C の出力を停止後、再度開始されました。
	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント A の監視を再開します。	[Ping 監視]の実行の結果が「合格」でしたので出力コンセント A の出力の監視が再開されました。
	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント B の監視を再開します。	[Ping 監視]の実行の結果が「合格」でしたので出力コンセント B の出力の監視が再開されました。
	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント C の監視を再開します。	[Ping 監視]の実行の結果が「合格」でしたので出力コンセント C の出力の監視が再開されました。
	出力コンセント A に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。	[Ping 監視]の実行の結果出力コンセント A に設定されている機器からの応答がありません。
	出力コンセント B に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。	[Ping 監視]の実行の結果出力コンセント B に設定されている機器からの応答がありません。
	出力コンセント C に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。	[Ping 監視]の実行の結果出力コンセント C に設定されている機器からの応答がありません。
	Ping 監視判断基準が不合格のため、UPS を停止します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので UPS を停止しました。
	Ping 監視判断基準が不合格のため、UPS を再起動します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので UPS を停止/再起動しました。
	リモートコンピュータは Ping 監視のスクリプトでシャットダウンしました。	[Ping 監視]の実行の結果リモートコンピュータのスクリプトシャットダウンを実行しました。
	SNMP サービス開始しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP サービス停止しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 開始しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 停止しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 開始しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 停止しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 アクセス権限追加しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。

	SNMP V1 アクセス権限削除 しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 アクセス権限変更 しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 アクセス権限追加 しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 アクセス権限削除 しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 アクセス権限変更 しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 TRAP 追加しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 TRAP 削除しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 TRAP 変更しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 TRAP 追加しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 TRAP 削除しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 TRAP 変更しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	スクリプトシャットダウン追加 しました。	[スクリプトシャットダウン]画面の設定が変更されま した。
	スクリプトシャットダウン削除 しました。	[スクリプトシャットダウン]画面の設定が変更されま した。
	スクリプトシャットダウン変更 しました。	[スクリプトシャットダウン]画面の設定が変更されま した。
	[ログオフ時間] を変更しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	最大バックアップ時間 を変更しました。	[その他のデバイス]画面の設定が変更されました。
	UPS 起動遅延時間 を変更しました。	[UPS 再起動設定]画面の設定が変更されました。
	UPS コールドスタート設定 を変更しました。	[UPS 再起動設定]画面の設定が変更されました。
	出力遅延コマンド送信 を変更しました。	[UPS 再起動設定]画面の設定が変更されました。
	UPS 再起動条件 を変更しました。	[UPS 再起動設定]画面の設定が変更されました。
	通知遅延時間設定 を変更しました。	[イベントログオプション]画面の設定が変更されまし た。

	POP Before SMTP を変更しました。	[Mail 設定]画面の設定が変更されました。
	管理者設定を変更しました。	[管理者情報]画面の設定が変更されました。
	スクリプトシャットダウン を開始しました。	スクリプトシャットダウンが実行されました。
	VMware 終了処理を開始 しました。	VMware の終了処理が実行されました。
	ブロードキャスト を変更しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	Ping 設定を変更しました。	[Ping 監視設定]画面の設定が変更されました。

4. 3. 2 イベント情報による外部コマンドの実行

イベント情報とコマンドの関係付けをあらかじめ行っておくことで、イベント発生時に、そのイベントに関係付けされたコマンドを自動実行する機能です。

[設定方法]

- ① メモ帳などのテキストエディタを起動します。
- ② 以下のフォーマットに従って、イベントと実行するコマンドの関係を記述します。
 イベントコード = コマンド名
 イベントコード: PowerAct Pro のイベントコードを 16 進数で記述します。
 (イベントコードは「イベントコード一覧」を参照してください)
 コマンド名 : 実行するコマンドをフルパスで記述します。
 (Windows のコマンド以外のユーザが独自に作成した exe ファイルでもかまいません)
 例: 0x409 = C:¥OMRON¥test.exe
 0x409(通信エラー)のイベント発生時に、C:¥OMRON フォルダにある test.exe を実行。
 「イベントコード = コマンド名」を 1 行として、計 10 行まで記述できます。
 (=最大 10 個のルールが設定できます)
- ③ 作成したファイルを、PowerAct Pro のインストールフォルダ
 (デフォルトでは「C:¥Program Files¥PowerAct Pro(Master Agent)」)に、
 「ExternalSetting.ini」というファイル名で保存します。
- ④ PowerAct Pro のエージェントを再起動します。
 タスクトレイのアイコンのメニューで「エージェント停止」を実行し、次に「エージェント起
 動」を実行することで再起動できます。
 もしくは、PowerAct Pro をインストールしている PC を再起動してください。
 これで、本機能が有効になります。

[イベントコード一覧]

以下に示すイベントを設定できます。

「重大」カテゴリ	
イベントコード	内容
0x800	バッテリーロー
0x801	シャットダウン開始(入力電源異常)
0x802	スケジュールシャットダウン開始(指定日)
0x803	スケジュールシャットダウン開始(毎月)
0x804	スケジュールシャットダウン開始(毎週)
0x805	即時シャットダウン開始
0x806	外部コマンド実行を開始します
0x807	アプリケーション終了を開始します
0x808	OS シャットダウンを開始します
0x809	ハードウェア異常
0x80A	出力電圧異常
0x80B	DC バス電圧異常
0x80C	オーバーロード異常
0x80D	出力短絡異常
0x80E	バッテリー過充電異常
0x80F	バッテリー充電不足異常
0x810	温度異常
0x811	ファン異常
0x812	トランス異常
0x813	バッテリー劣化
0x814	自己診断結果:異常あり(バッテリー劣化)
0x815	自己診断結果:異常あり(ハードウェア異常)
0x816	バッテリー自動テスト結果:異常あり(バッテリー劣化)
0x817	バッテリー自動テスト結果:異常あり(ハードウェア異常)
「警告」カテゴリ	
イベントコード	内容
0x400	入力電源異常
0x401	スケジュールシャットダウン開始警告(指定日)
0x402	スケジュールシャットダウン開始警告(毎月)
0x403	スケジュールシャットダウン開始警告(毎週)
0x404	シャットダウン一時停止
0x405	接続容量オーバー
0x406	出力電圧調整
0x407	バッテリー未接続

0x408	バイパス運転中
0x409	通信エラー
「情報」カテゴリ	
イベントコード	内容
0x000	入力電源回復
0x001	通信確立
0x002	エージェント起動
0x003	エージェント停止
0x004	自己診断結果:異常なし
0x005	バッテリー自動テスト結果:異常なし
0x006	「UPS 出力コンセント選択」を変更しました
0x007	「待機時間」を変更しました
0x008	「シャットダウン開始遅延」を変更しました
0x009	「シャットダウンに必要な時間」を変更しました
0x00A	「コンセント出力停止までの時間」を変更しました
0x00B	「UPS 起動時の出力コンセント遅延時間」を変更しました
0x00C	「OS の終了モード」を変更しました
0x00D	「UPS の自動再起動」を変更しました
0x00E	「初回警告」を変更しました
0x00F	「警告間隔」を変更しました
0x010	「スケジュール運転開始警告」を変更しました
0x011	「最大イベントログ記録時間」を変更しました
0x012	「最大データログ記録時間」を変更しました
0x013	「記録間隔(商用運転中)」を変更しました
0x014	「記録間隔(バックアップ運転中)」を変更しました
0x015	「通信ポート」を追加しました
0x016	「通信ポート」を削除しました
0x017	「ネットワークポートアドレス」に関する設定を変更しました
0x018	「SMTPメール」を変更しました
0x019	「スケジュール運転(指定日)」を追加しました
0x01A	「スケジュール運転(毎月)」を追加しました
0x01B	「スケジュール運転(毎週)」を追加しました
0x01C	「スケジュール運転(指定日)」を変更しました
0x01D	「スケジュール運転(毎月)」を変更しました
0x01E	「スケジュール運転(毎週)」を変更しました
0x01F	「スケジュール運転(指定日)」を削除しました
0x020	「スケジュール運転(毎月)」を削除しました
0x021	「スケジュール運転(毎週)」を削除しました

0x022	「外部コマンド実行時間」を変更しました
0x023	「外部コマンド」を追加しました
0x024	「外部コマンド」を削除しました
0x025	「ユーザへの通知」を変更しました
0x026	「バッテリー使用開始日(交換日)」を更新しました
0x027	「シャットダウンパラメータ」をデフォルト値にしました
0x028	「UPS 起動/再起動」をデフォルト値にしました
0x029	「ログ」をデフォルト値にしました
0x02A	「通信設定」をデフォルト値にしました
0x02B	「イベント情報」を変更しました
0x02C	「通知先」を変更しました
0x02E	「ブザーテスト」を実行しました
0x02F	「自己診断テスト」を実行しました
0x030	「ブザー」設定を変更しました
0x031	「バッテリー自動テスト」設定を変更しました
0x032	「バックアップ時間テスト」を開始しました
0x033	「バックアップ時間テスト」を終了しました
0x034	「バックアップ時間テスト」をキャンセルしました
0x035	[出力コンセント B(制御あり)]の出力を開始しました
0x036	[出力コンセント B(制御あり)]の出力を停止しました
0x037	[出力コンセント C(制御あり)]の出力を開始しました
0x038	[出力コンセント C(制御あり)]の出力を停止しました
0x039	「出力電圧/入力感度」を変更しました
0x03A	「バッテリーユニット」を増設しました
0x03B	シャットダウンを再開します
0x065	「UPS 自動停止」を変更しました
0x066	「ページ更新設定」を変更しました
0x067	「冗長電源設定」を変更しました
0x068	「Syslog 機能」を有効にしました
0x069	「Syslog 機能」を無効にしました
0x06A	「Syslog 設定」を変更しました
0x06B	「Priority 設定」を変更しました
0x06C	「Syslog 言語設定」を変更しました
0x06D	「送信設定」を変更しました
0x06E	「送信タイミング」を変更しました
0x06F	「Wake On LAN 送信先」を追加しました
0x070	「Wake On LAN 送信先」を修正しました
0x071	「Wake On LAN 送信先」を削除しました

0x072	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント A を出力停止します。
0x073	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント B を出力停止します。
0x074	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント C を出力停止します。
0x075	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント A を出力停止／出力開始します。
0x076	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント B を出力停止／出力開始します。
0x077	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント C を出力停止／出力開始します。
0x078	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント A の監視を再開します。
0x079	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント B の監視を再開します。
0x07A	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント C の監視を再開します。
0x07B	出力コンセント A に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。
0x07C	出力コンセント B に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。
0x07D	出力コンセント C に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。
0x07E	Ping 監視判断基準が不合格のため、UPS を停止します。
0x07F	Ping 監視判断基準が不合格のため、UPS を再起動します。
0x080	リモートコンピュータは Ping 監視のスクリプトでシャットダウンしました。
0x081	SNMP サービス開始しました。
0x082	SNMP サービス停止しました。
0x083	SNMP V1 開始しました。
0x084	SNMP V1 停止しました。
0x085	SNMP V3 開始しました。
0x086	SNMP V3 停止しました。
0x087	SNMP V1 アクセス権限追加しました。
0x088	SNMP V1 アクセス権限削除しました。
0x089	SNMP V1 アクセス権限変更しました。
0x08A	SNMP V3 アクセス権限追加しました。
0x8B	SNMP V3 アクセス権限削除しました。

0x8C	SNMP V3 アクセス権限変更しました。
0x8D	SNMP V1 TRAP 追加しました。
0x8E	SNMP V1 TRAP 削除しました。
0x8F	SNMP V1 TRAP 変更しました。
0x90	SNMP V3 TRAP 追加しました。
0x91	SNMP V3 TRAP 削除しました。
0x92	SNMP V3 TRAP 変更しました。
0x93	スクリプトシャットダウン追加しました。
0x94	スクリプトシャットダウン削除しました。
0x95	スクリプトシャットダウン変更しました。
0x96	[ログオフ時間]を変更しました。
0x97	最大バックアップ時間を変更しました。
0x98	UPS 起動遅延時間を変更しました。
0x99	UPS コールドスタート設定を変更しました。
0x9A	出力遅延コマンド送信を変更しました。
0x9B	UPS 再起動条件を変更しました。
0x9C	通知遅延時間設定を変更しました。
0x9D	Pop Before SMTP を変更しました。
0x9E	管理者設定を変更しました。
0x9F	スクリプトシャットダウンを開始しました。
0xA0	VMware 終了処理を開始しました。
0xA1	ブロードキャストを変更しました。
0xA2	Ping 設定を変更しました。